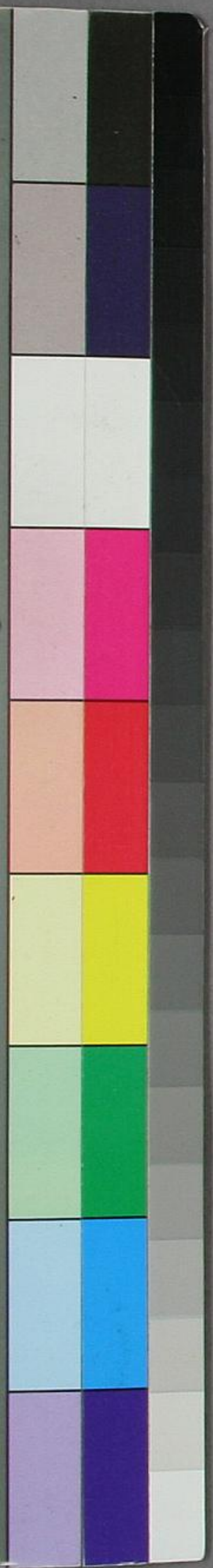


頭書  
大全

世界國盡

南亞米利加洲  
人洋洲  
附錄  
卷之五六  
再刻

柳田文庫  
文庫11  
A1836  
3



文庫 11  
A 1536  
3

南亞米利加洲の事  
南亞米利加洲の  
數ハ凡そ一千七  
百萬土人の子孫多  
シ或ハ土人と歐羅  
巴人との間小生も  
たる者も有る但し  
國を支配する者も  
歐羅巴人の種あり  
山林深くして草木

世界  
國  
卷五

南亞米利加洲

巴拿馬の地橋ニ千

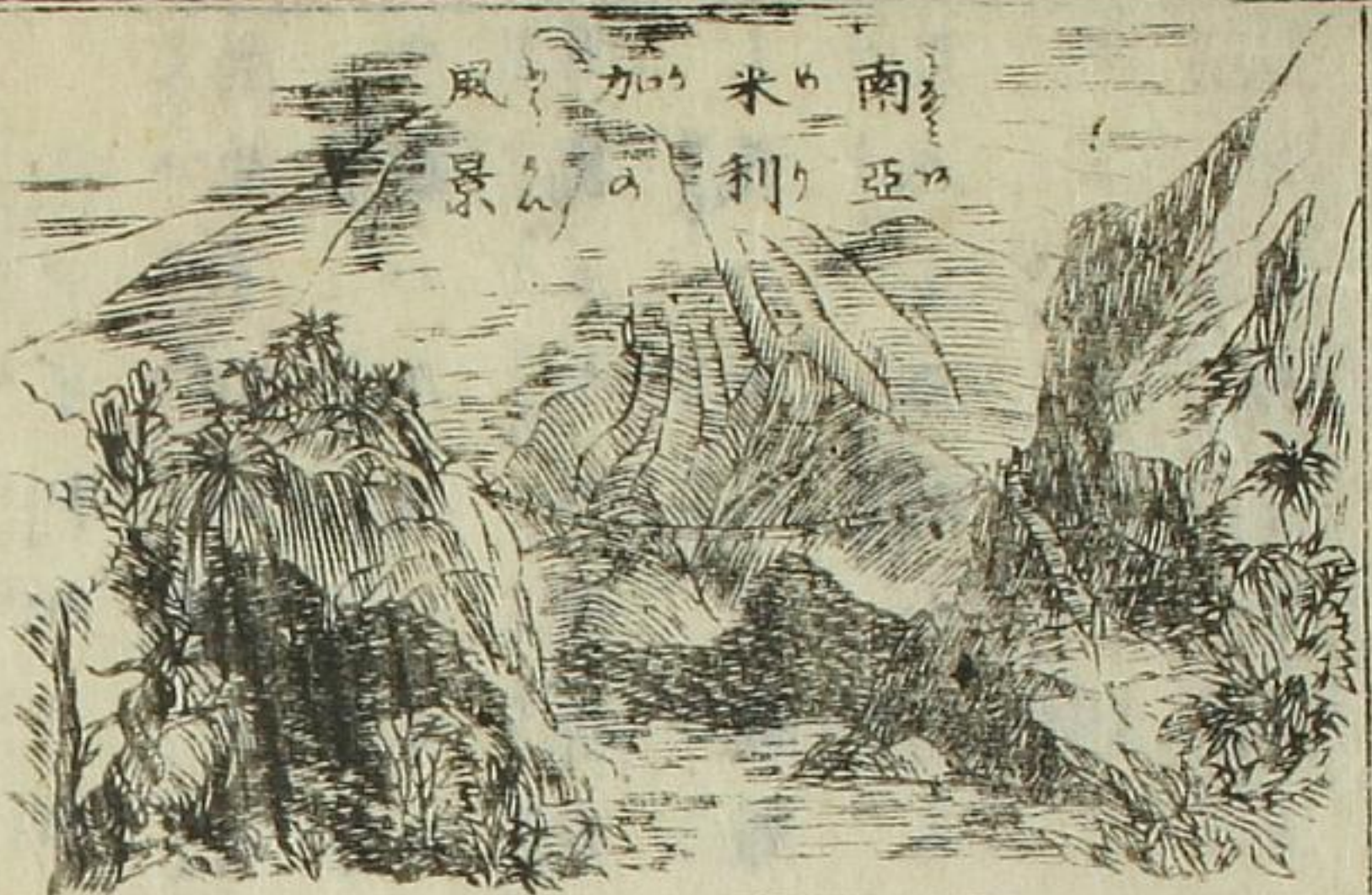
系里太平洋海峽河多

羅海左右小分りた

山の脈の通れ便

柳田文庫

茂阿非利加等  
如き不毛の地あり

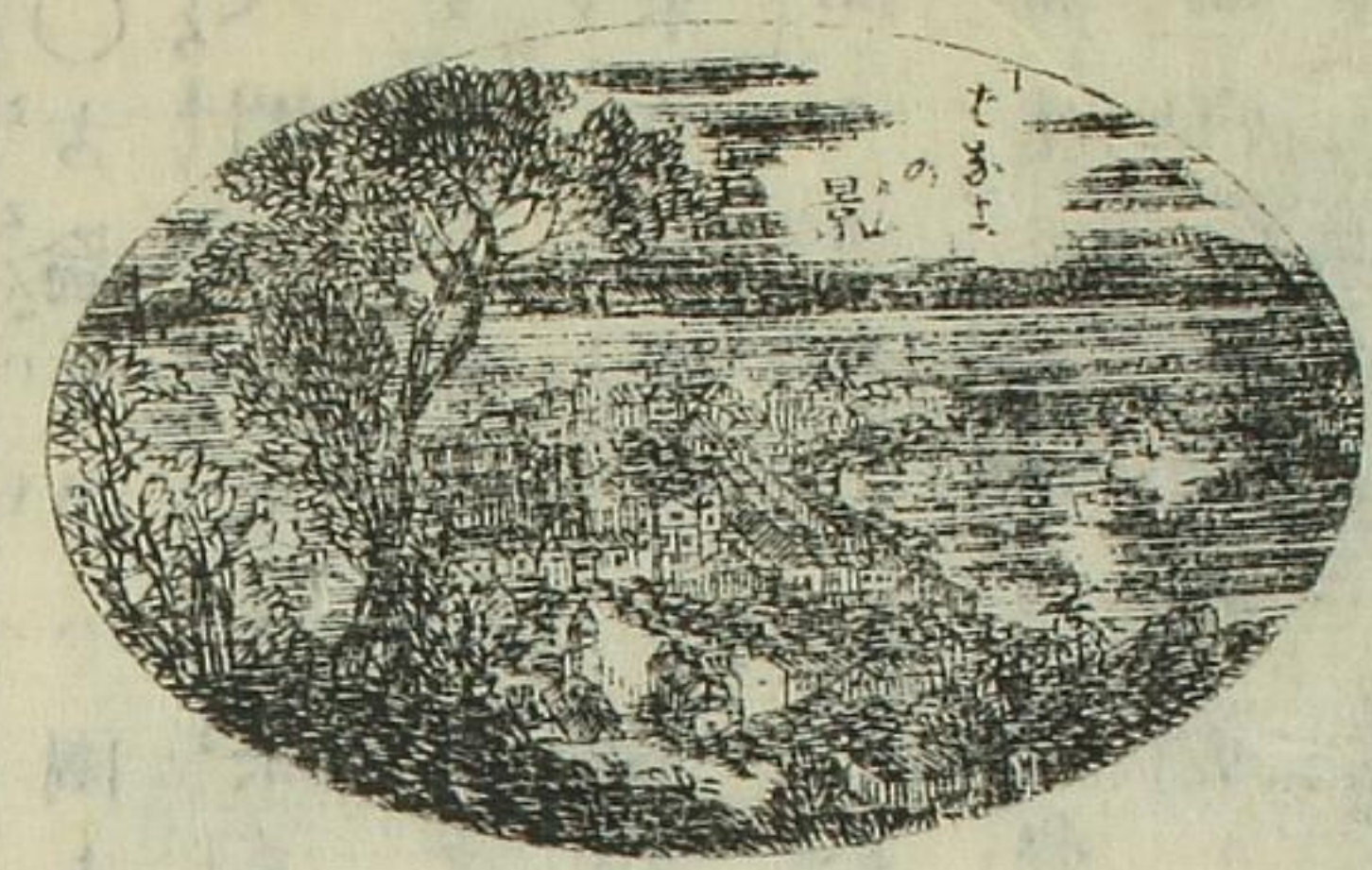


南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は  
南の地は

○古論備屋八國を  
八洲に分ち巴奈馬  
も其中の一州あり  
東の世界ハ末洲  
西の世界ハ巴奈  
馬として地理の模  
相似たる地峽あり  
但し巴奈馬の地峽  
ハ僅ハ二十里あり  
てあまど山嶺ハ

北の方より南に  
共和政府は古論  
備屋南の地は  
道國志を直に  
山嶺高し

ていまだ  
来むた  
道はるの



高野山に北の理を  
以て天に勝ら夏  
熱くく空のしり  
四時月々如春の野  
種奇くもそん

○赤道國とハ赤道  
の下小當るハ斯  
く名つけたるあり  
部根重良も暖國ハ  
てよく物を生む此  
邊ハ地震多きが  
故に家の作皆低し  
其都を「ハル」と  
いふ千八百十二年  
の大地震ハ殘らざ

川の様はる鄰の  
由は政事地理山  
部根重良國の  
遅速は東の方  
村はも農の時を  
二

つぶきたることり  
て都て南亞米利加  
ハ地震の甚きこと  
き地なり

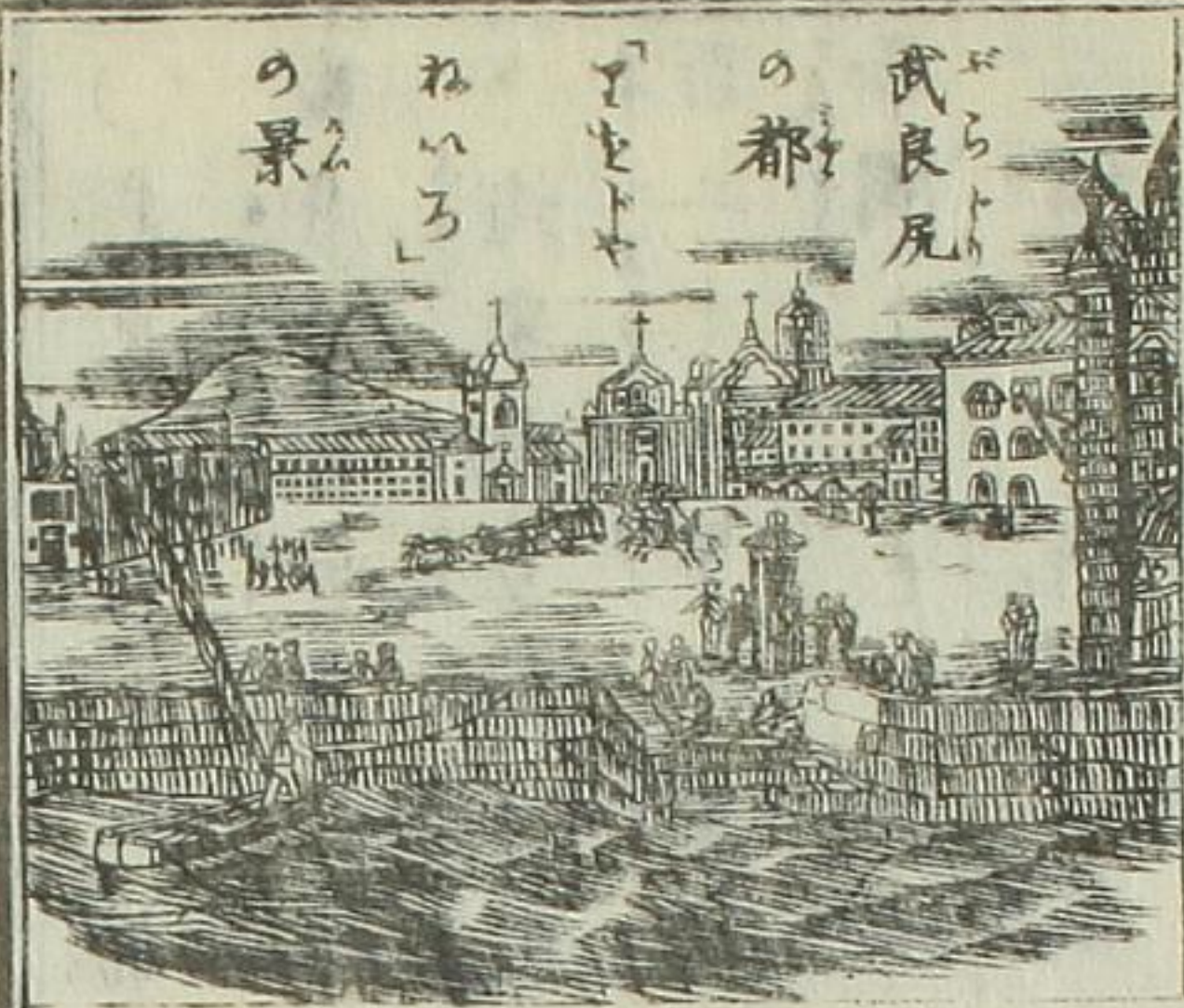


國一異きん又  
北ん七千里東西二百  
六十里土地の廣袤  
其二千一里中榮併

○武良尻ハもと葡  
萄牙の領分なり  
が近來獨立し千ハ  
百二十二年小至て  
帝國とふを南亞  
米利加の内にて第  
一の大國を國政  
寛くして教育の法  
行届き日耳曼及び  
瑞西より家を移し

英の三箇國名有つ  
る一都西に世界  
の物産を東の富  
に代りて人々  
助成被り不羈獨

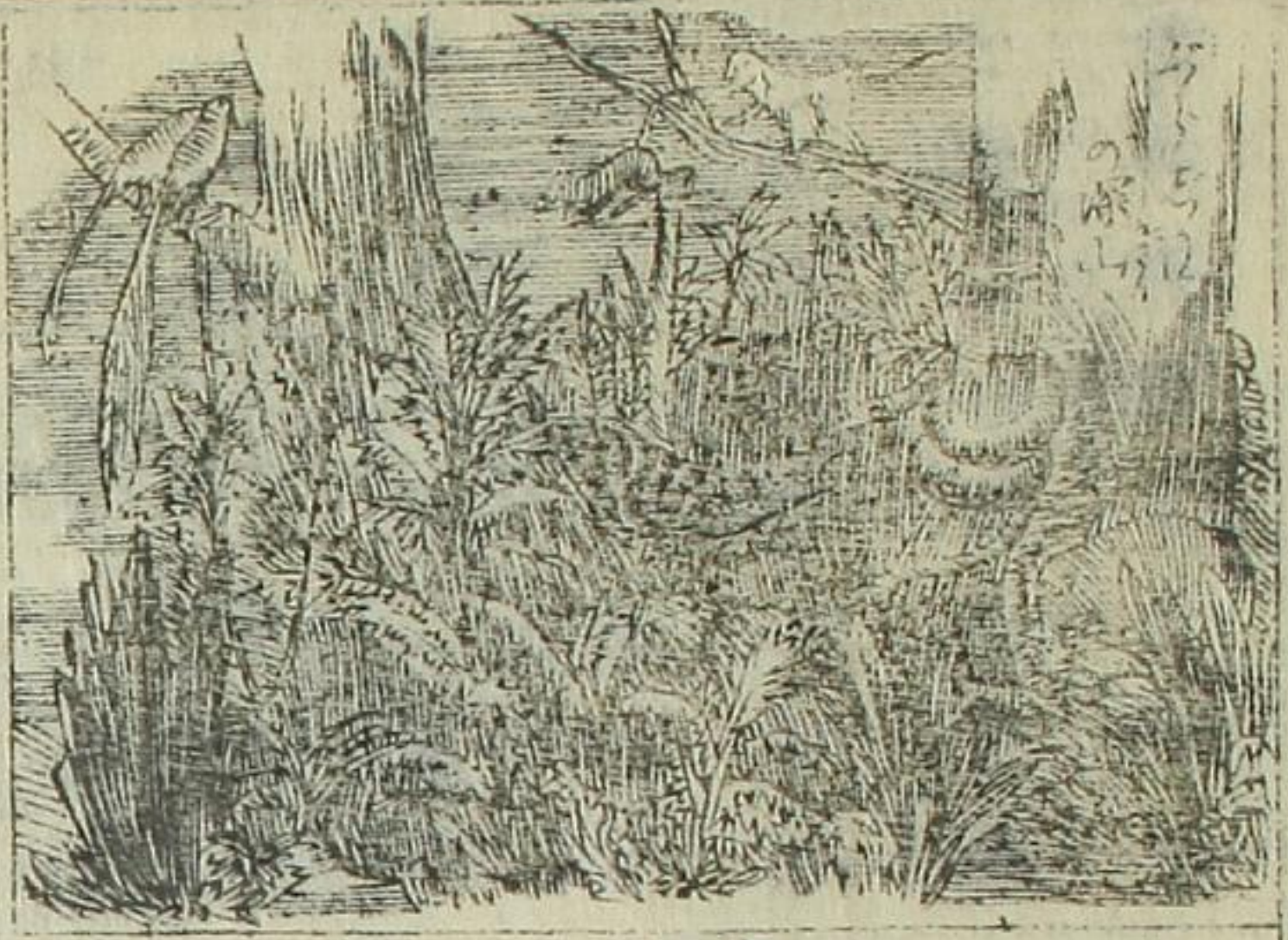
て来りし者も既ハ  
六萬人の都の名  
を「王」を志やねい  
といふ大都會あり



立の「武良尻」人口  
七百七十萬亞米利  
加洲の南方に比類少  
き一帯に地はひらき  
→ 鞍水之口以て

武良尻の産物ハ  
糖とつひハ材木等  
の外ハ金銀も多  
殊小だいやもと  
此國の名産あり  
領分の土地ハ廣  
きども人の數少  
く内地の方ハま  
だ開らけざりて珍  
禽異獸夥しといふ

たおろしき深山の  
多木長葎り禽獸  
人ト曰水とて  
進む世の界此文  
の教流りト末



保里備里巴羅貝等  
の諸國も皆合衆政  
府をもども土地の

母に風俗を遠く  
慕ふ片を稿集る  
人と夥し東南に  
少は保里備里巴羅  
貝字柳貝良富羅

開らまを固よ  
蒸氣車の路もあ  
く徒歩して往來を  
る小も山阪の間小  
難處多し荷物を運  
送る方小八大抵人  
馬のをを用也或  
谷川小繩の橋を架  
て往來をる處あり  
木曾の掛橋の如し

多越るも巴多吳  
仁屋土地の風俗人  
情に大略同共和  
政み多あり濠州の  
麻漉蘭が渡り

風流人ハ悦ぶ  
おもむく日用の不  
便利ハ夥シ



山林の深き  
氏良

死のちからを南亞  
米利加洲何をも同  
様ナリ深山の奥小  
至まば草木森々  
して樵者の跡も見  
へど獅子の一聲百  
獸戰慄群猿月小呼  
べば旅客も心を悼  
む開闢の始よ  
ていよと人工を經

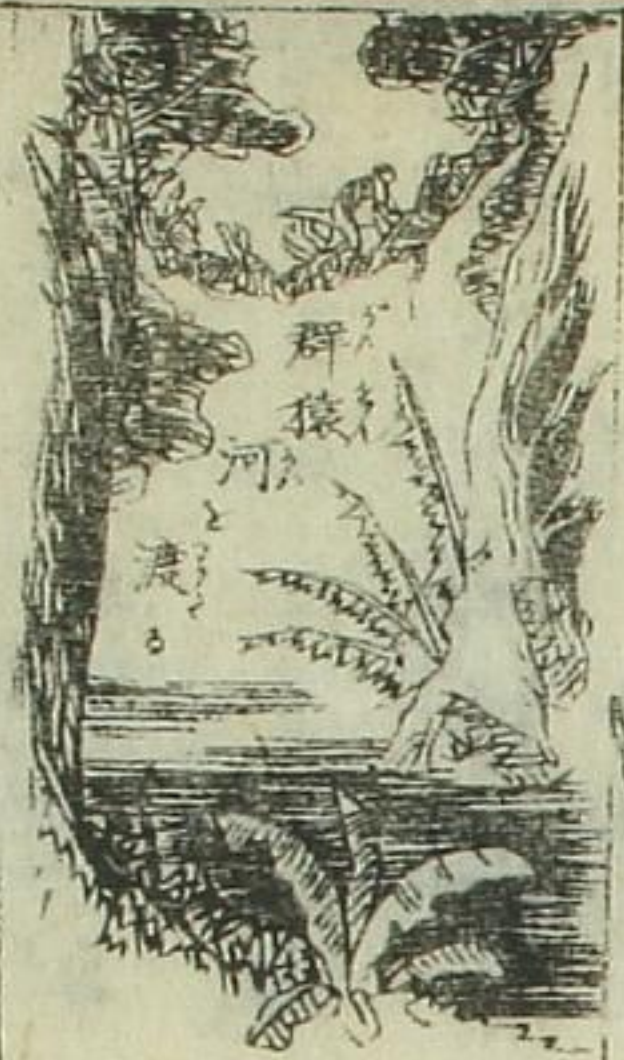
火の玉ハ亞米利加洲  
の赤道の峰中ニ廻  
ル池鯉の國安天  
次山ハ林麓ニ南北  
ハ石平里東西僅

一五里天氣可厭の  
が終りしは世界  
比類多し赤道  
以南の土地ハ北  
夏秋冬異なり我



ざるの地おそバヤ  
の景色如何おも  
のまごー山静か  
て太古の如しとい  
此邊の有様を味  
たるものあらん又  
暖帯の地お大  
る蝮蛇の如て折々  
人を害るといふ恐  
るが如くことあり

六月、彼は冬、彼は  
炎暑、我は冬、寒  
暑の順、成はる  
四時、正しく、松の  
百物、成て、豊た、る



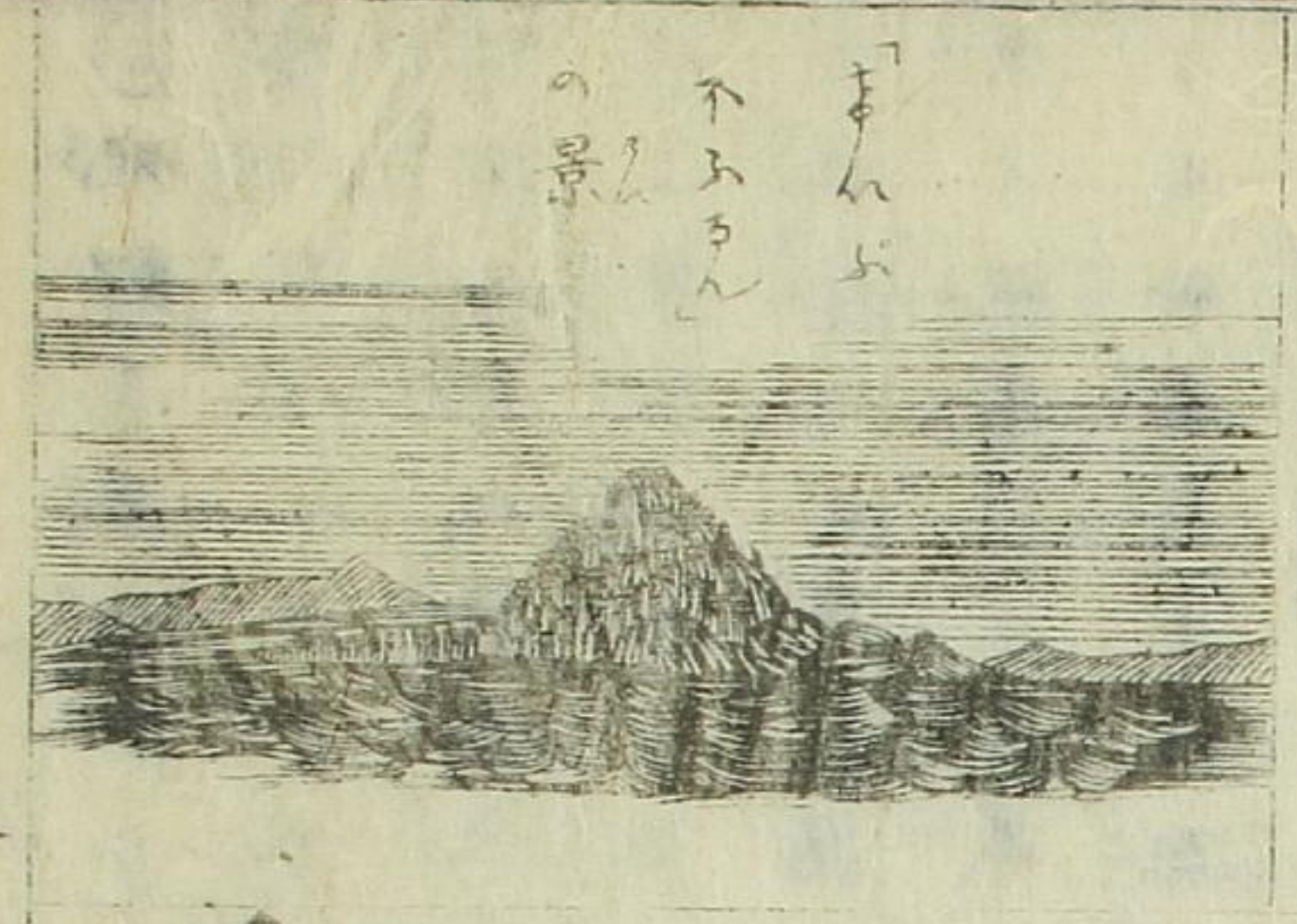
○火の國ハ南の端  
不離きたる嶋あり  
此嶋おハ火山多き

の人口二百萬諸海  
會後、共和政、民、此  
教育、於て、以て、法、方  
建て、學、問、所、格  
古、以、人、教、之、業、人、係

やん斯く名けりと  
岬の名をよんぶ  
不ふらんといふ其  
地理東の世界の喜  
望峰小似たを此邊  
の土人の風俗甚と  
陋しく又肉を喰  
ふもの有り饑饉か  
どの時小ハ犬おて  
も猫おても食とど

すむ文の  
富強と伴てその行  
未の幸福な期  
安天須山ぬり  
すむ文の  
富強と伴てその行  
未の幸福な期  
安天須山ぬり

るものありことか  
老嫗の肉を賞玩と  
る



「まんぶ  
不ふらん  
の景

中夜一逢然ハ平  
柳玉人口ニ百四葉  
土地下ニ生テる産物  
ハ女穀金糸綿砂糖  
此と積る事ハ其の豊の

○地理の西班牙の領分ありしが千八百十七年以來獨立して共和政府となす近年ハ次第に國政を改革して文武とも不盛あり四五年前以前西班牙より軍艦を差向けしと度々あきども遠

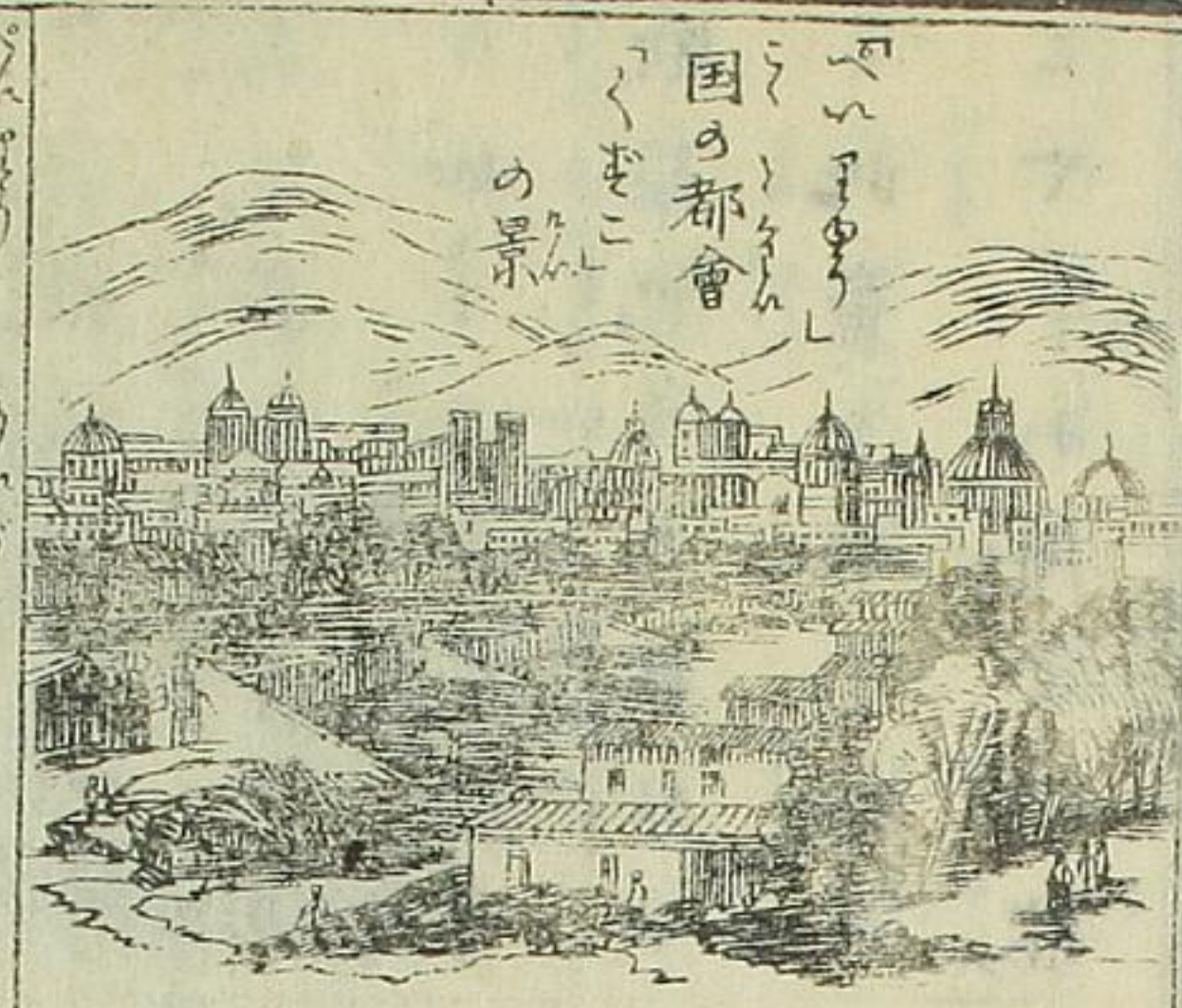
貴たる所は平柳國の幾那以皮を製する幾那嶺を天下無類の解其前其悩し病人を幾

小克たど其都をさんちのじとひふ海岸より四十里をこの更小なり此間ハ蒸氣車の路を作て運送の便利を達せり

那嶺を以苦を忘れしは杉の目とん彼令病苦を忘るん勿れ地理乃學物と從

の手を離れ獨立の  
共和政府とあるを  
首府の名を「マニラ」  
とす海岸は近し東  
の方小離れてくど  
この一なる都會は  
此國も近來ハ次  
第小繁昌して南亞  
米利加の内おても  
上國の名なり

この事、王の意思  
ありては、此の道學  
は、遠くわたり、  
と、再び、此の、縁に  
と、世界中、此國也



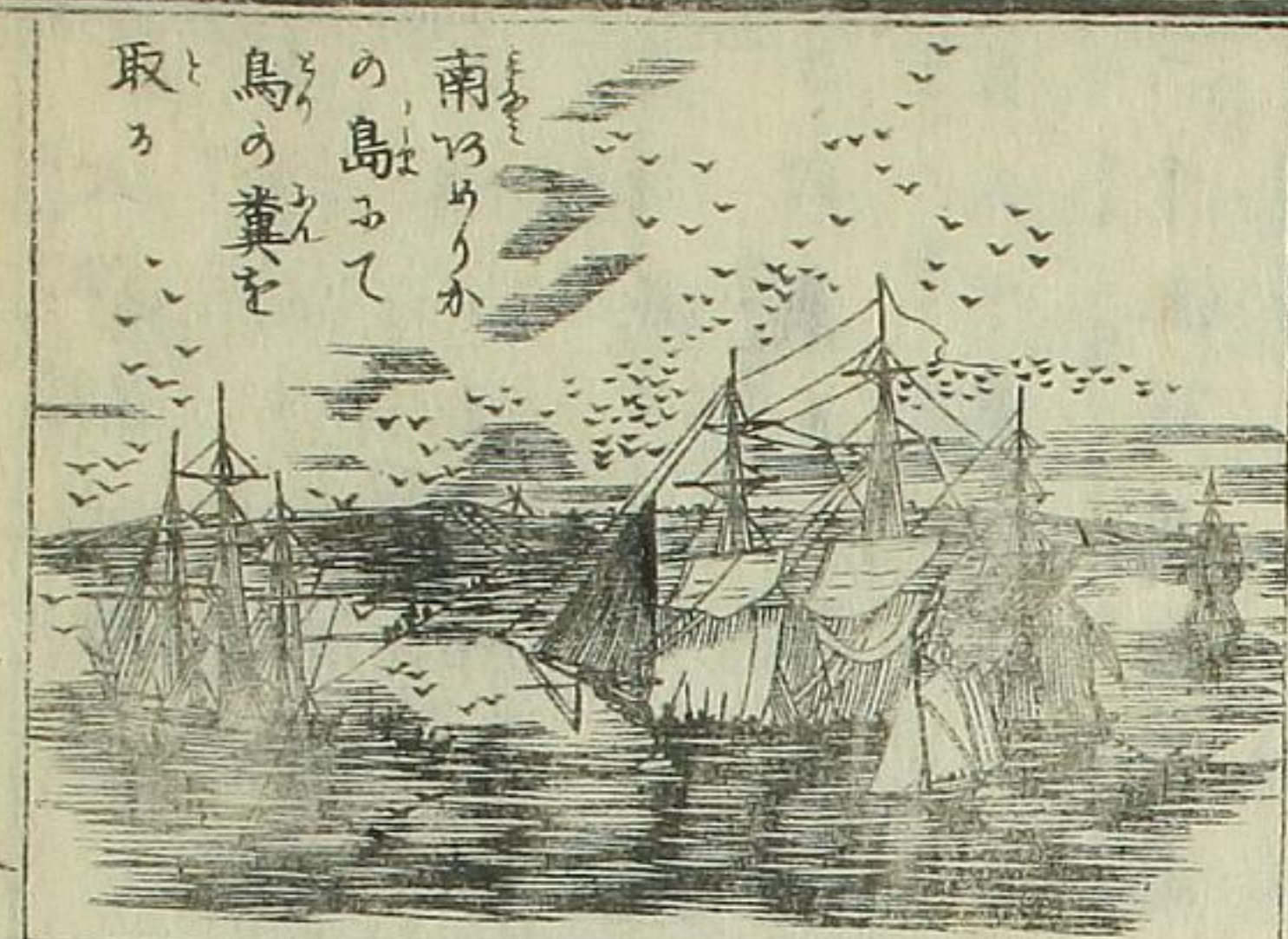
平柳の海岸ハ、ちん  
ちや、る、不、ま、ど、い  
ハ、ろ、小、嶋、つ、此、邊  
ハ、夥、く、海、鳥、の、集

亞細亞、河、非、利、加、歐  
羅、巴、亞、米、利、加、海  
北、南、序、列、島、連、綿  
大、陸、を、此、島、に、  
大、略、え、其、を、可、く、記

万處不て朝不群と  
 飛べバ其影天を覆  
 ひ暮小嶋小歸をバ  
 其聲數里不聞不數  
 千年來嶋に積り一  
 鳥の糞堆くして山  
 の如く三十年以來  
 歐羅巴人の思付小  
 て此糞を取て畑の  
 こや一不用て功能

ひたふ、片ありし刻  
 し世は在る所なく日  
 臨候し、心志を  
 得ぬ新しく普及明  
 し、片、島々、或る系

万の incoming 追々世  
 不印して既小日本  
 へも持渡りて



南洋  
 大洋洲  
 太平洋の島々、幾  
 百千の數都るに亞  
 細亞海の南東

大洋洲の事  
大洋洲と太平洋海  
の鳴々を集りたる  
名目あり土地の廣  
う次集ま八九四  
百五十萬坪人口を  
二千五百萬余赤道  
の邊傍に在る諸島  
も天然の産物甚  
多し胡椒出む

海峽と之群之是  
須磨多羅保苗根  
尻哇瀨禮部次  
呂宋次擇洲新銀  
石西洋次總支配乃

樟腦象牙砂糖  
ひ黄金銅錫石炭  
澤山あり尻哇須  
磨多羅保留根尾瀨  
禮部須新銀名須擇  
洲等ハ和蘭の領分  
おて本國政府の臺  
所より以ふる地  
あり呂宋の邊傍に  
あり鳴々西班牙

地赤道より多  
物其遠くた  
本國に衣食  
富

二島領其都  
を由ららと心烟  
草の名所あり唐人  
ハ巻煙草のころ儀  
呂宋烟と唱ふ不  
のこことあり都て此  
邊の嶋々小住居と  
る人ハ島人の種類  
ふて風俗甚ただ趣  
しく歐羅巴人の支

利用の經濟を余里  
此浪は水多き地  
理の多る航海の術  
其研うたり文明は  
勇と知漢の功を



配を受てこま小徒  
ハ王或ハ山の奥小  
籠て獨立せられたるの  
もつ

人南よりむらき一  
世界昔より此の地は  
見せし和蘭人の  
不きれも新和蘭  
と存せし今其

○澳大利亞の本名  
ハ「ア」に「タ」に「ラ」に「オ」に「ア」  
ヤと「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
ると「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
と「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
南「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
名「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
五年即ち我慶長十年  
年の頃和蘭の始  
てこき見出し新

石を河にたまり 英  
吉利領の澳大利亞  
東西の里南北の度  
少くは八百里  
人口は四百餘人

和蘭と名りたり  
まどり 和蘭の本國  
よる手を入きてそ  
の領分とあせし  
も「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
十九年即ち我明和  
六年英吉利の航海  
者「ハ」に「南」に「ア」に「オ」に「ア」  
る者世界中を航海  
して此地に至る

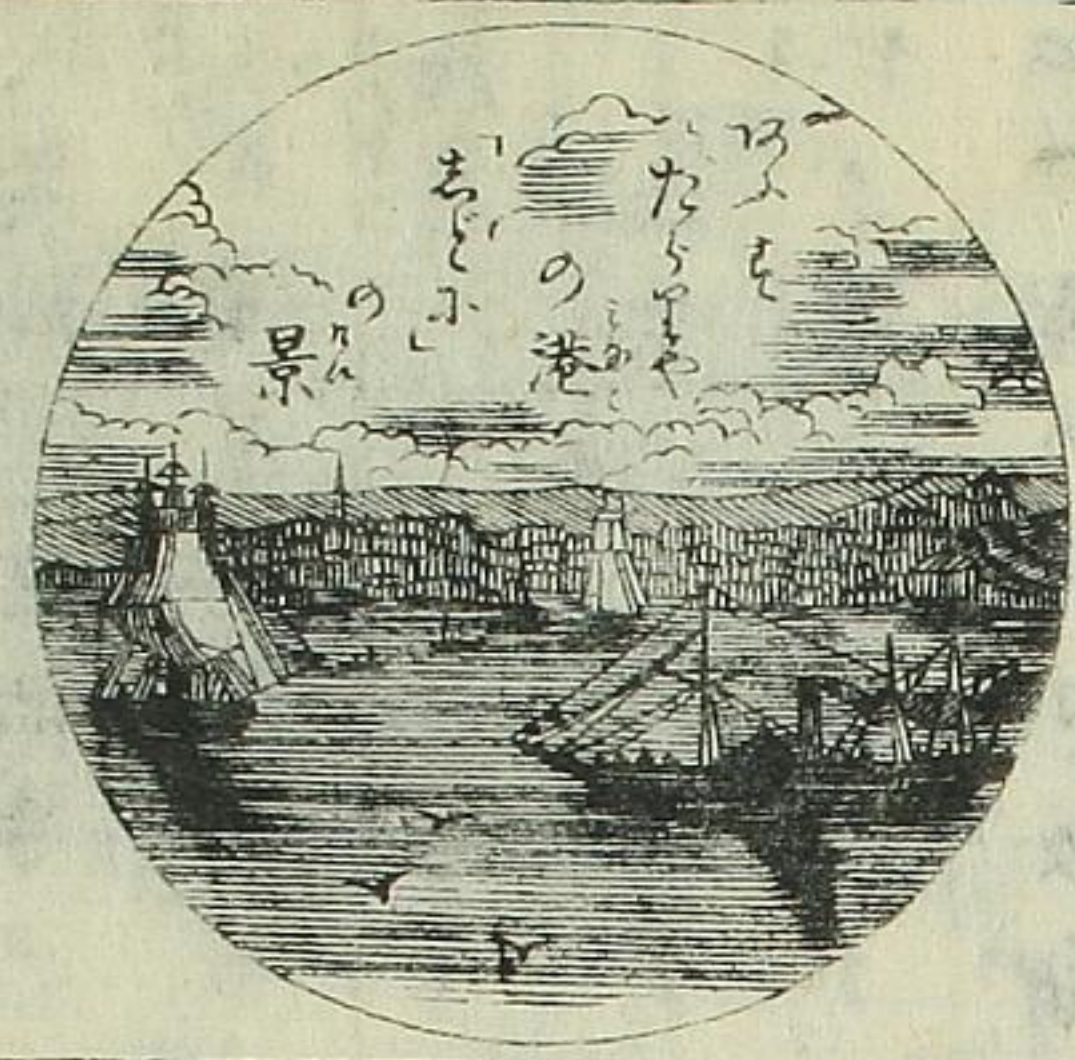
北由化の玉様を  
今も一人は稀に  
物を生かすは  
多く新發明は金  
の山は大陸洲の江類



や其模様を詮索せ  
其後英吉利も  
罪人を流し次第小  
人の種も増て遂小  
英吉利の領分と  
其土地の廣大  
あるに又歐羅巴洲  
を六小分て其五分  
小當り故小近來  
ハこもを鳴と唱へ

以て、厚保留仁厚の  
有り、其年、これ種  
以黄金、幾多、其の  
限り、餘り、或、其、是  
くも、或、八、一、港、女

て、南、海、の、一、大  
洲、と、い、ふ、もの、を、い



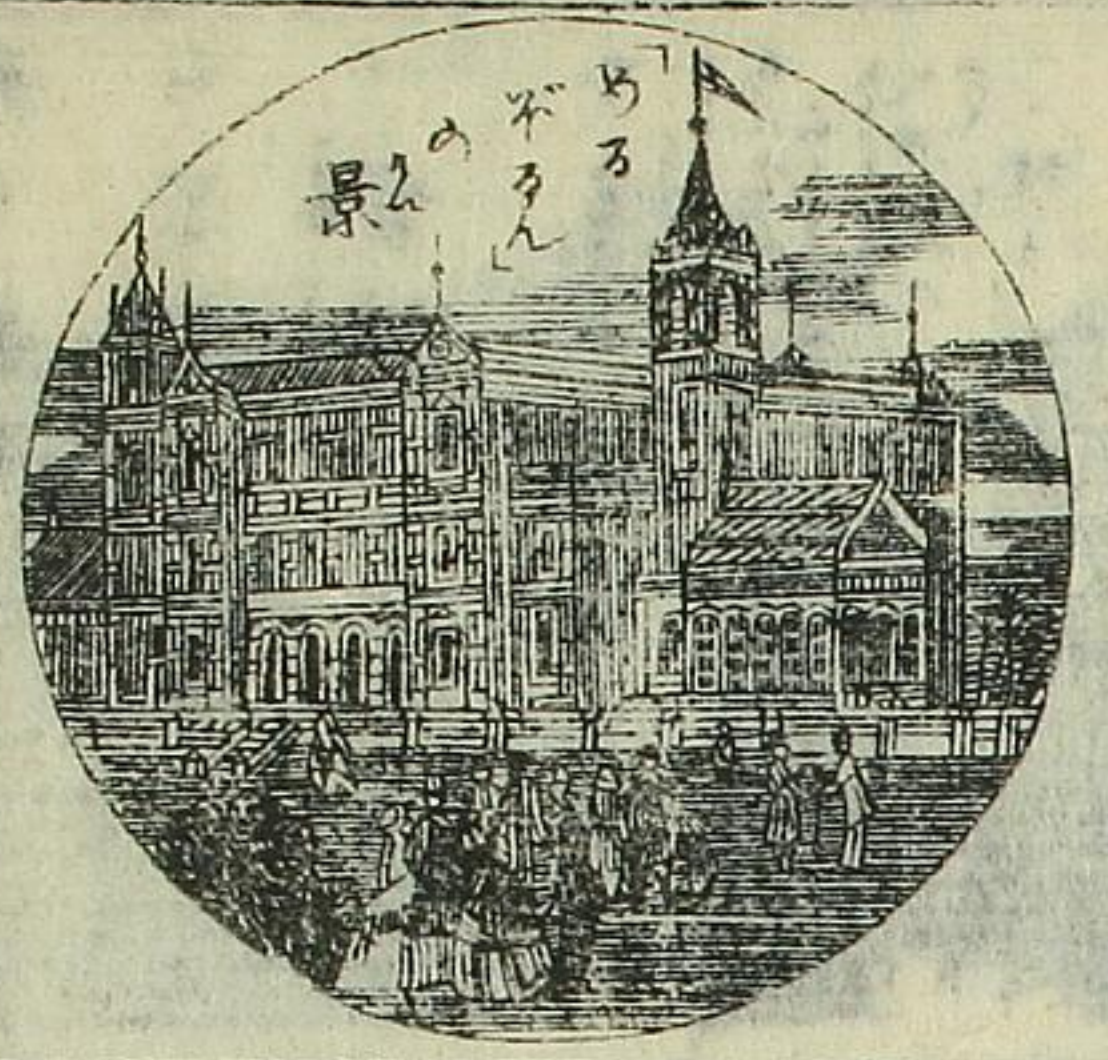
澳大利亞ハ土地の  
割合小して人の數

留保論志、此、仁、の、市  
れ、交、易、の、日、一、賑、ふ  
衣食住み、あり、此、海  
の、新、世界、榮、る、時、を  
近、く、南、の、市、を、い

少一百万人の  
 内土人ハ僅小五萬  
 人其餘ハ皆歐羅巴  
 人の種あり南東の  
 海岸ハ土地柄よく  
 繁昌せし志戸  
 仁ヶ港ハ東海岸小  
 口の南の方小女留  
 保論といふ都會の  
 第一の都也

多事可めは度東一  
 てもりせは洋蘭土皆  
 英吉利の支配受  
 け人口各十余萬  
 天氣時疾し中和

殊はこの近傍小  
 ハ金山のちゆ益  
 繁昌せりよ

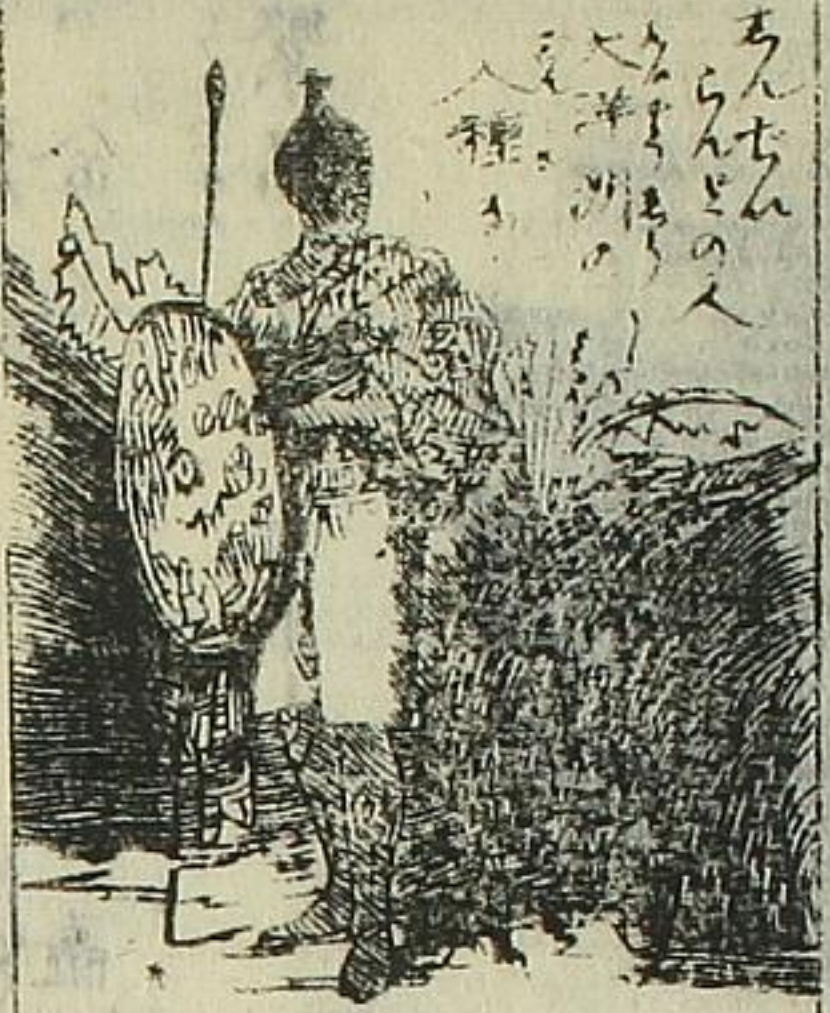


新地伊蘭土の英

以得新地伊蘭土を  
 英吉利の義ト當  
 て本國とひひ合  
 る是の驍畫和の町  
 刺倒よ英の夜本

新島 英吉利

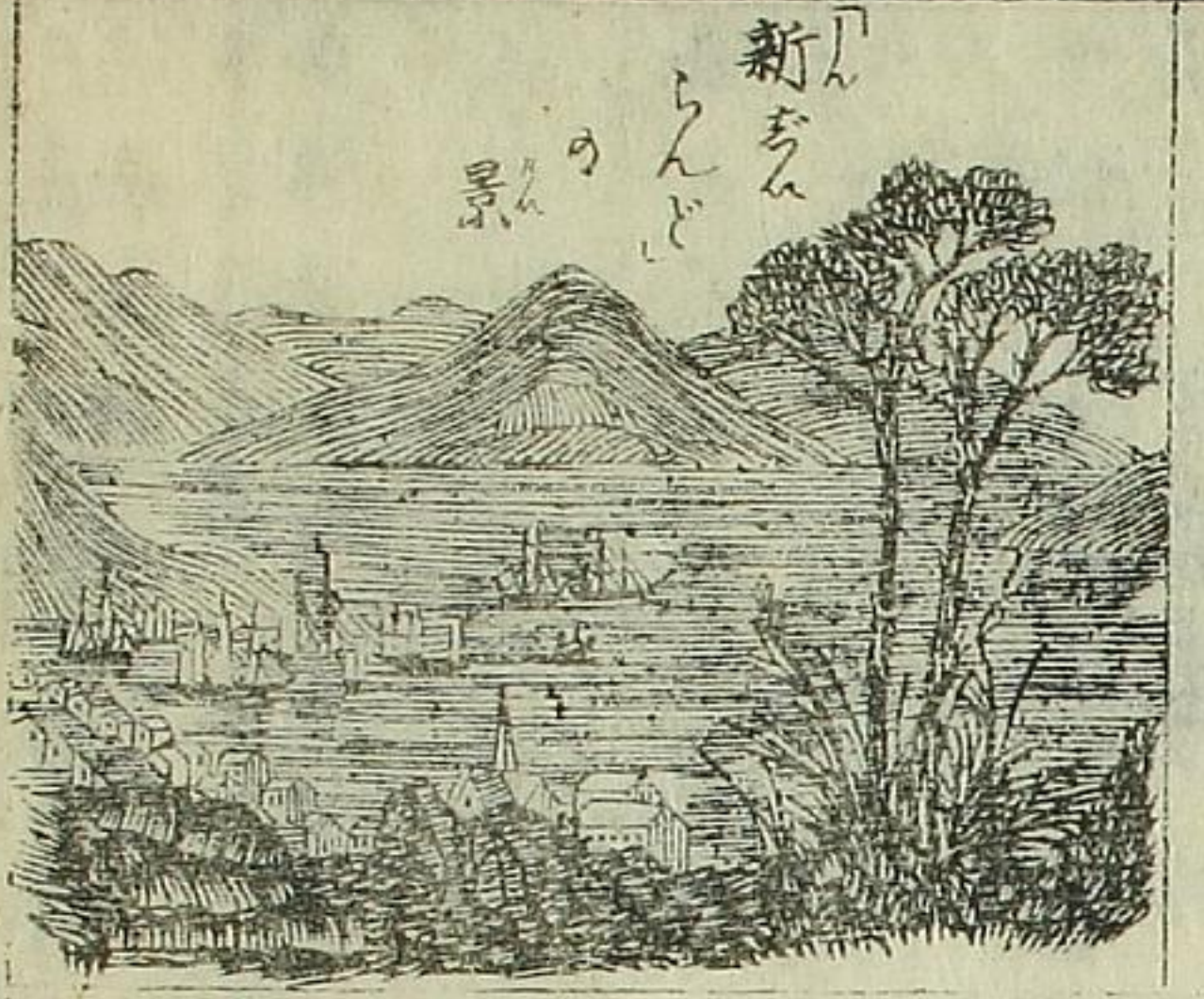
吉利の領分おと土  
地の模様はふまた  
らそや不同ト土人  
ハ皆体お不足もの  
をみる風俗あり



この島と英吉利と

は此地の畫より之  
れは彼地より之  
け美吉利王の領  
分より之誤し其時  
と云ふ新地伊索

昼夜の異なる所以  
ハ地球の圓くして  
廻る理合を考へて  
合点を画し



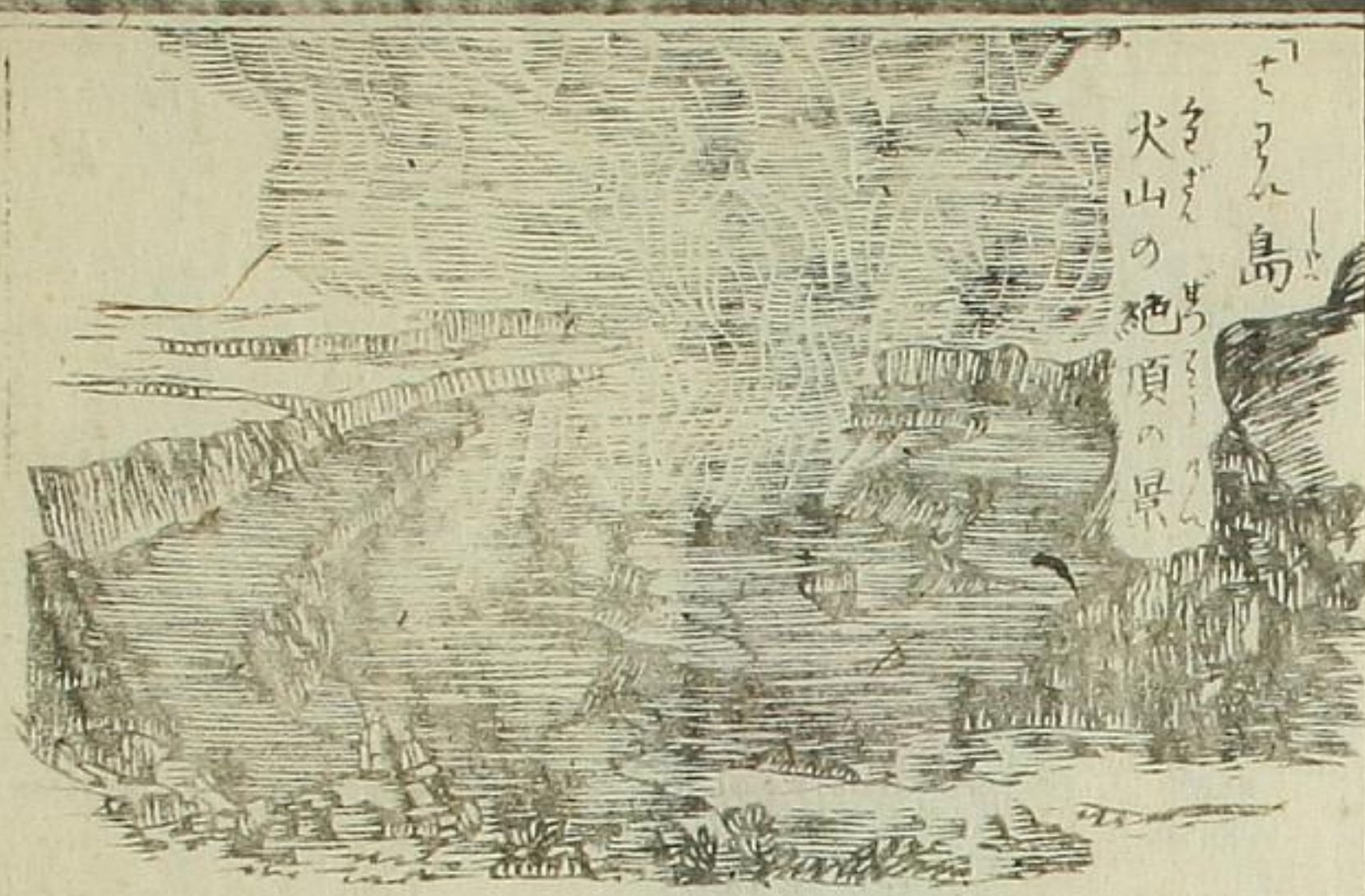
出北東数子の島  
以通越赤道  
越北の方山出逸  
地の崎々之口僅七方  
人土地を狭くん獨立

世界万国通表五

○山土逸地ハ千七  
 百七十八年かびた  
 人ニツクの見出せ  
 島ホテ同人ハ此嶋  
 人ハ殺さまたり人  
 の住居まゐる島の數  
 ハ何々王風島の隣  
 あり「七」ハ一モ  
 ン大いナク島あり  
 火山多一産物ハ砂

國を平海に北方  
 獨り以て北程を  
 占め、蘇樞船以て  
 交易を風嶋の花  
 嶋を一の交易場矣

糖小麥綿烟草あど  
 澤山あり

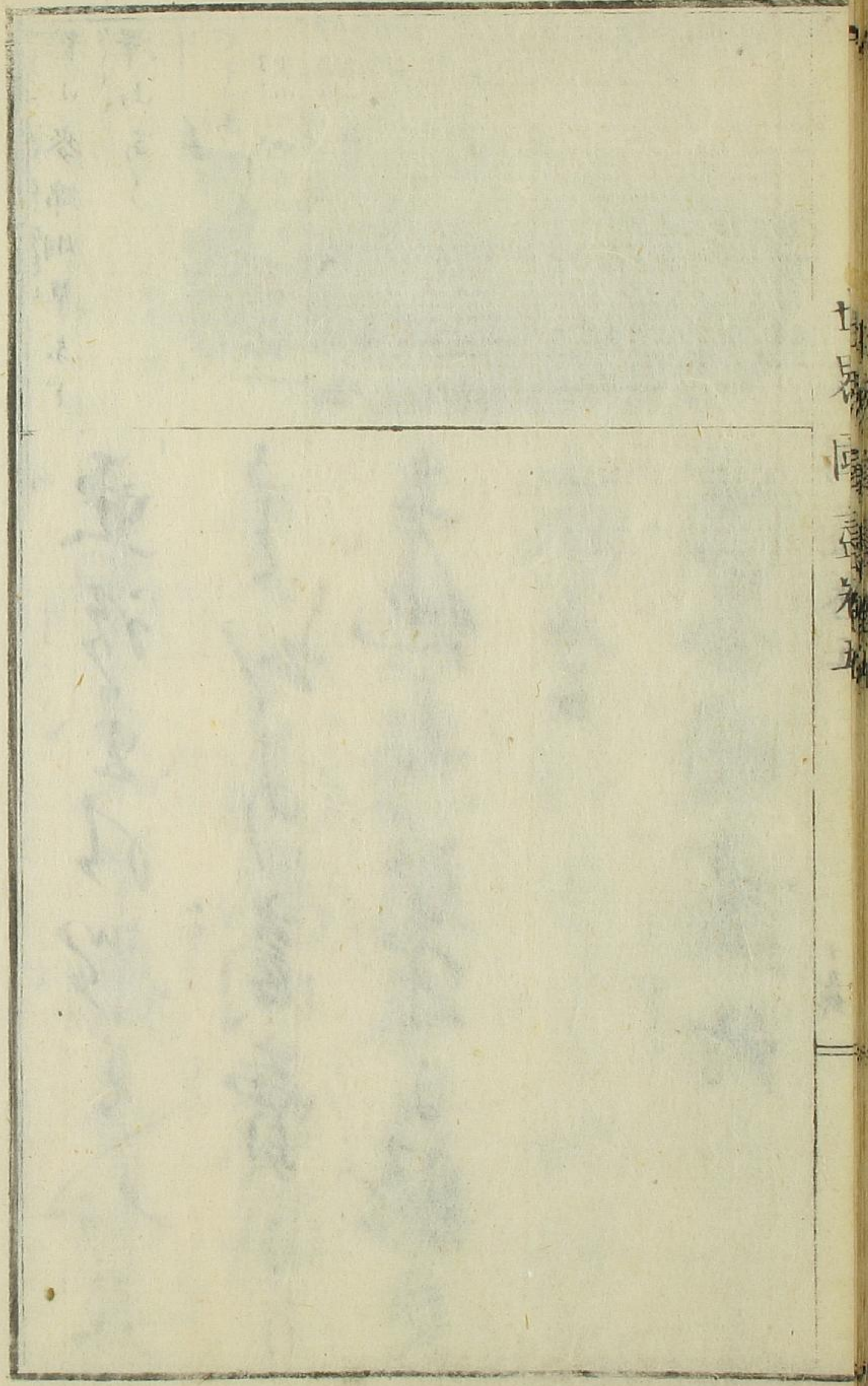
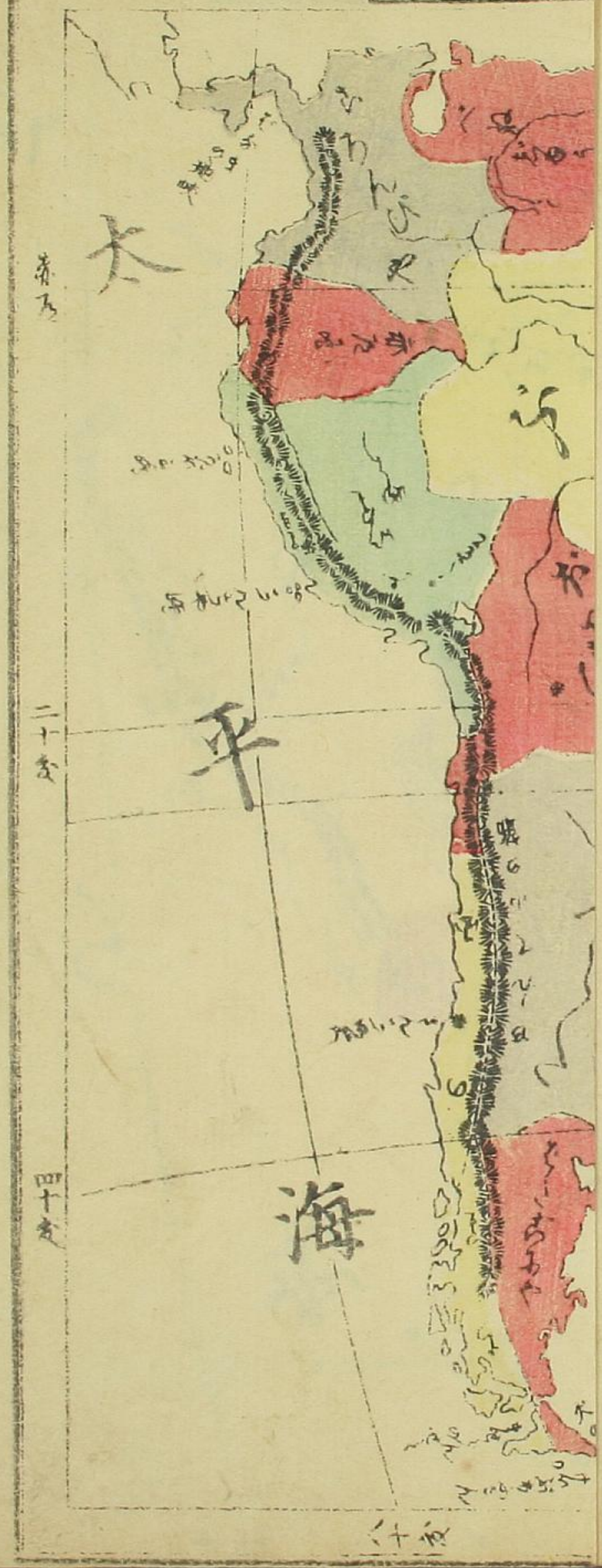


火山の絶頂の景

此島を以て船を以て  
 交易の商賣  
 土地を以て交易の  
 場を以て

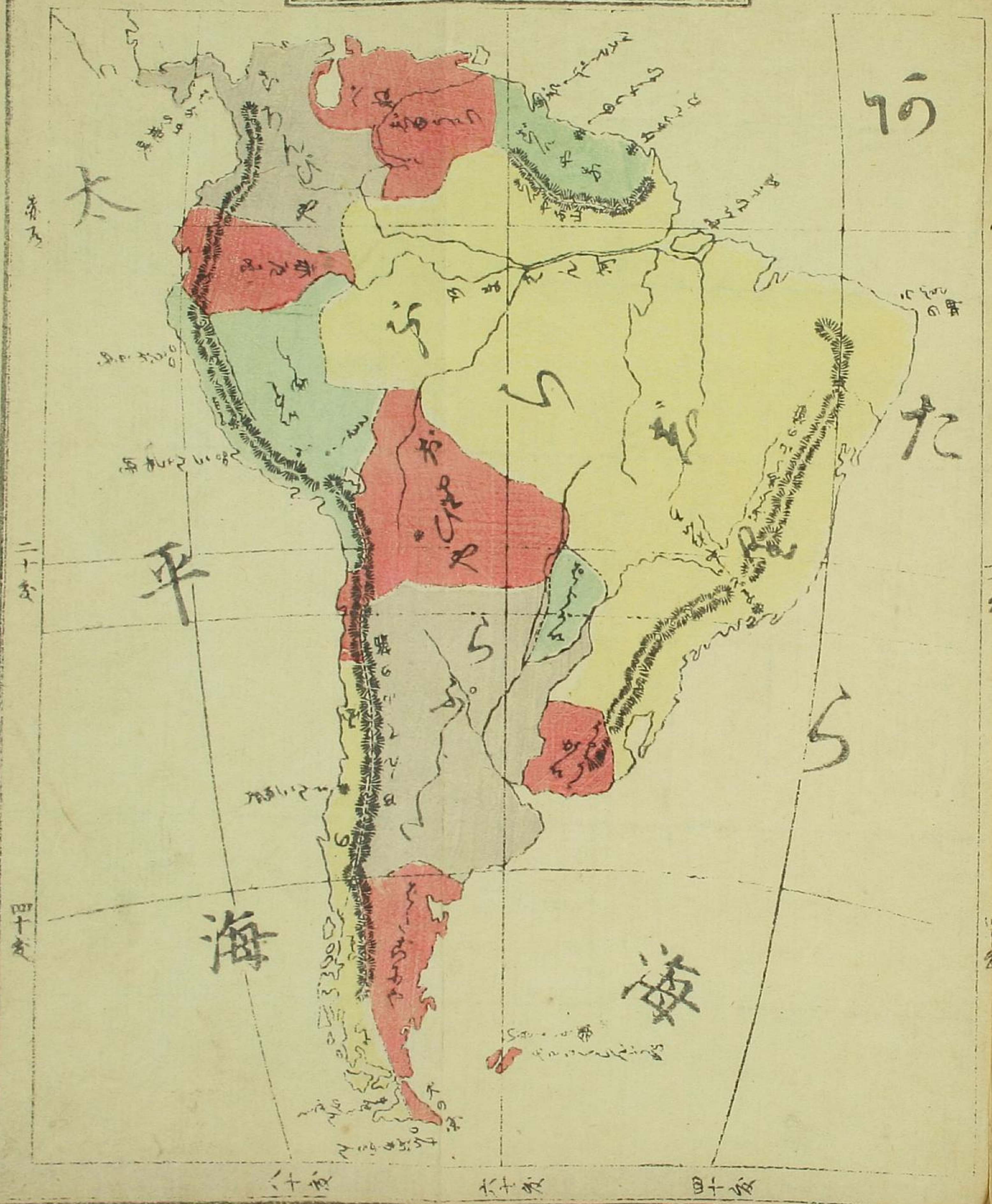
世界地圖盡終

加洲



七  
長  
同  
長  
五

南亞米利加洲

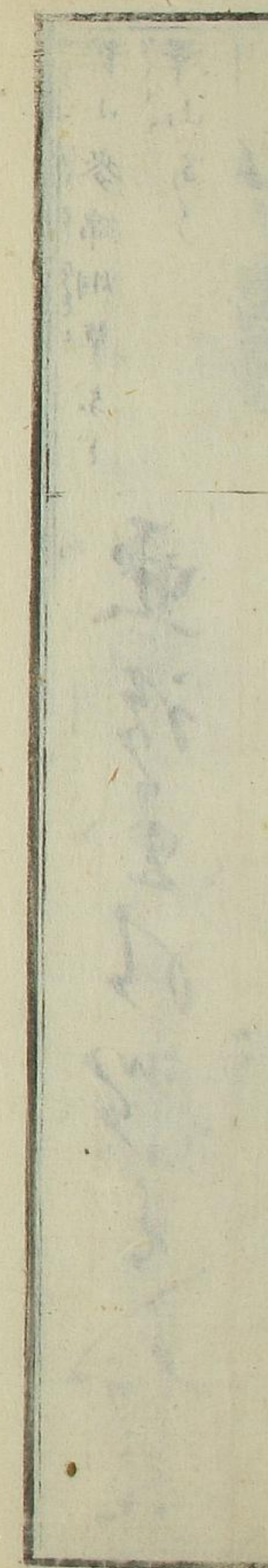


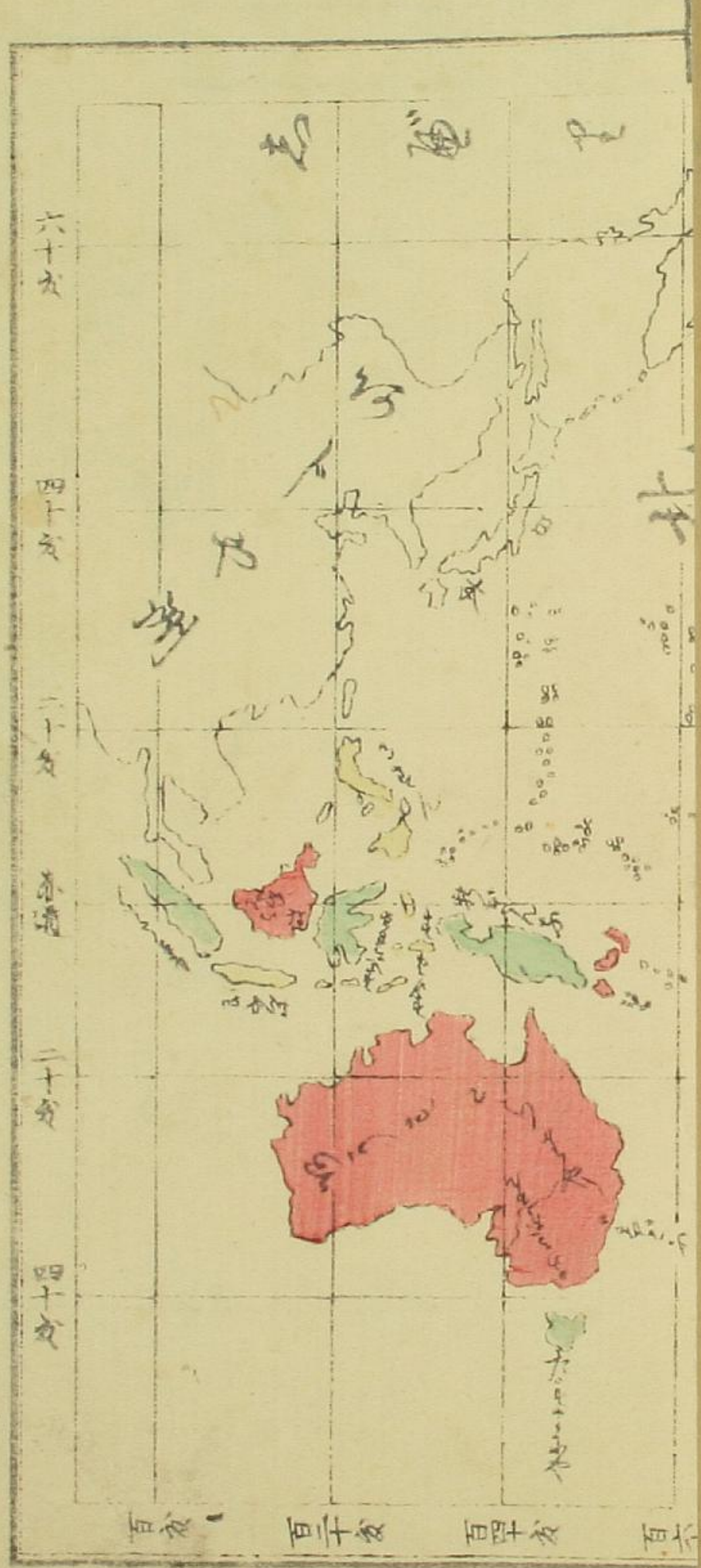
南

二十度

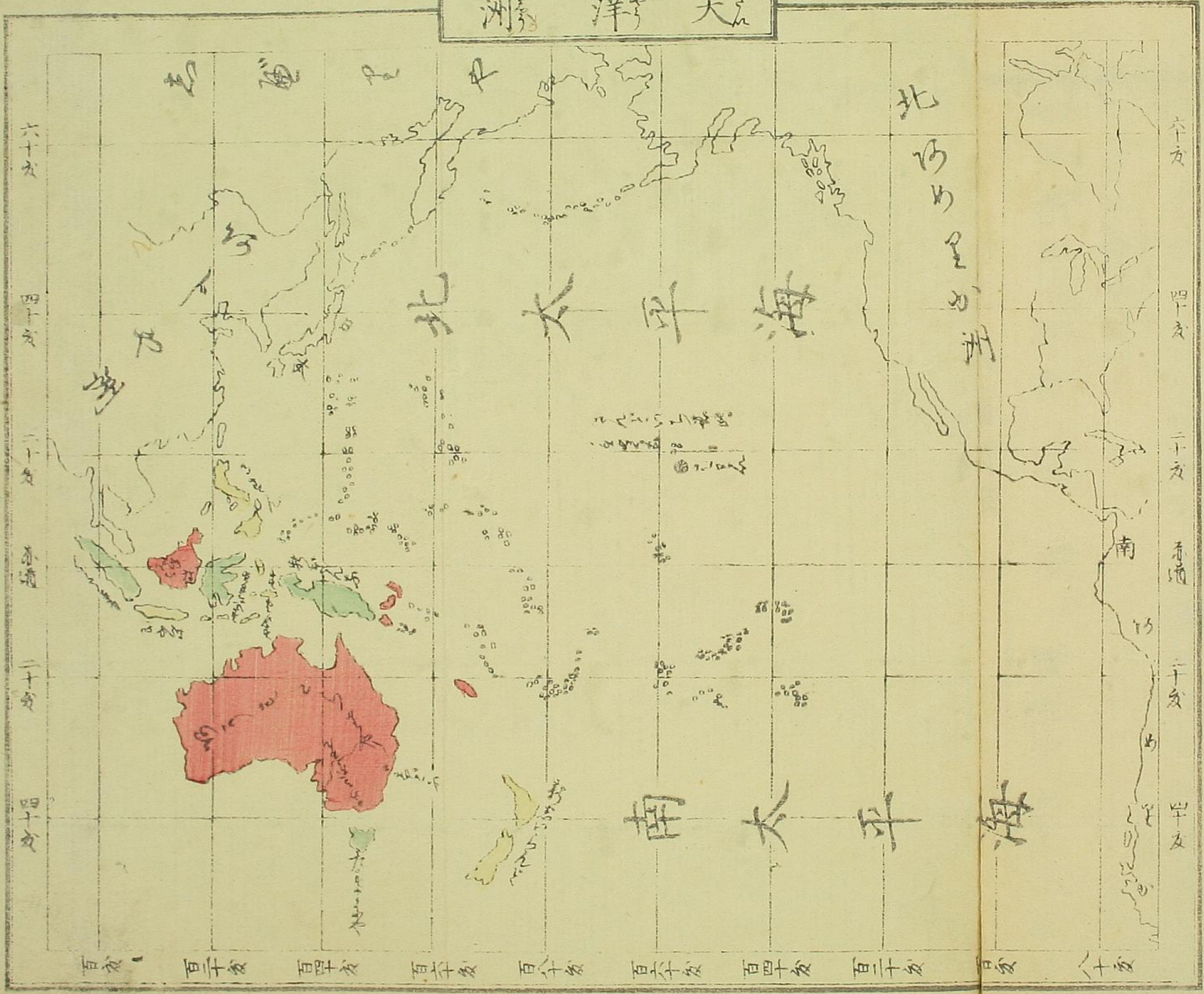
四十度

五十二





大洋洲



六十五  
四十五  
二十五  
赤道  
二十五  
四十五

六十度  
四十五度  
三十度  
赤道  
十五度  
零度

百零一 百零二 百零三 百零四 百零五 百零六 百零七 百零八 百零九 百一十



世界國盡附録

地理學の總論

地理學ハ西洋の語ことばにて「ち」ようがらひいふ  
 ぶようとハ地ちの義ぎあり「ち」ようがらひいふとハ書かきといふ  
 義ぎあり故ゆに地理學ハ地球ちきう上かみのことを書記しきし地  
 球ちきうの外面ぐわんめんを包つむ空氣くうきのありさまでも説とき明あら  
 ねる學問がくもんなり  
 地理學を三箇条さんくわじょうに分わち第一だいいち箇条くわじょうを「ち」ようといふの

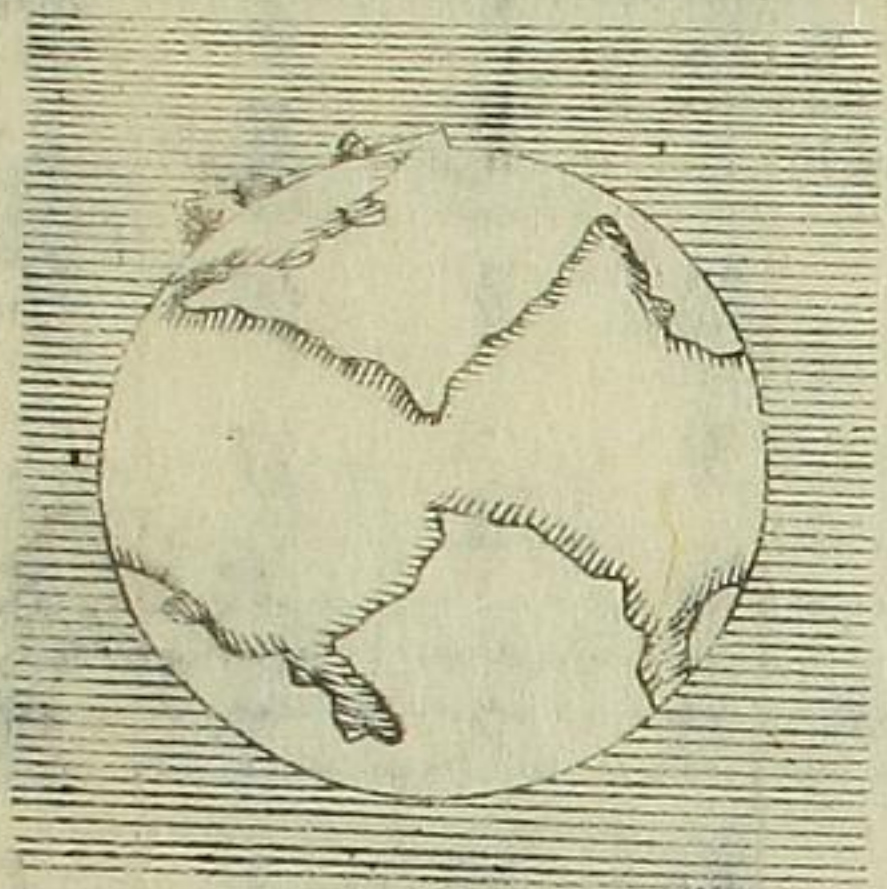
世界國盡附録

といふ。おようがらひといふ天文の地學といふ義あり。此箇条は於てハ地球を一個の遊星と見做し他の遊星と共に大陽の周圍を廻て四時寒暑の變化を起さどこのこと論を第二箇条をひしかる。おようがらひといふ自然の地學といふ義あり。此箇条は於てハ海陸山川の區別草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等を論を第三箇条をひしかる。おようがらひといふ人間の地學といふ義あり。此箇条は於てハ

人種言語の品類風俗政体の異同文學技藝の巧拙文明開化の前後等を論を

天文の地學

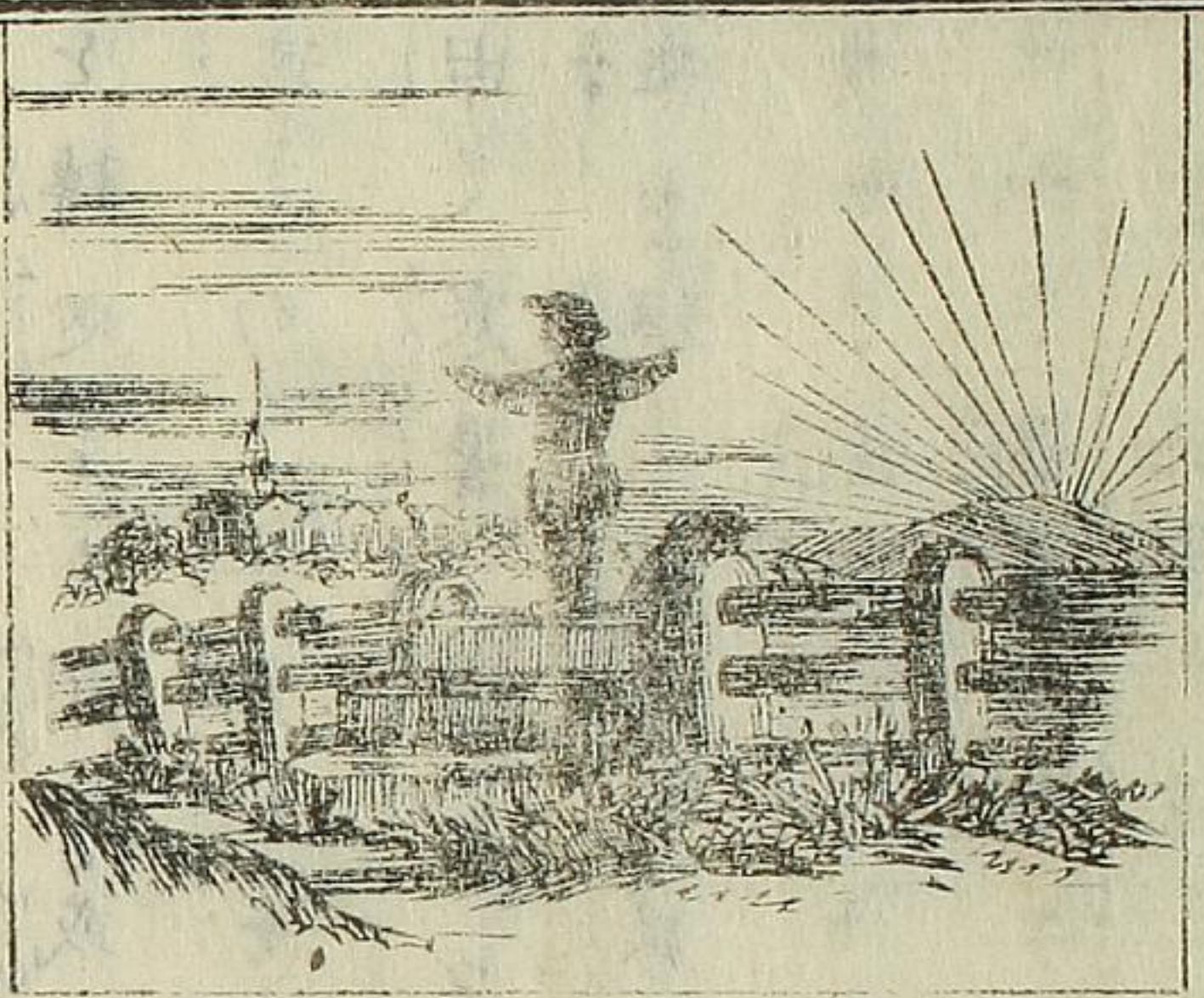
此世界も一個の遊星あり。遊星とハ圓き物おて空中に浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光とを受る星おて此日輪に附屬の遊星數多し。色ども大にふるものハ唯ハ個々の即ち地球も其内の一あり。地球の圓き證據ハ



船に乗て大洋に陸を眺る始ハ山の頂の  
 を見付け次第に陸へ近づくと從ひ麓の低き處  
 も見るべし又地球の影の月も映るるときハ月  
 食を起すその影があらざれば圓影圓まきバ其物  
 も圓きこと知るを  
 地球の周圓を一萬三千五百五里余の南北を  
 軸にして西より東へ轉び十二時の間は一廻を  
 終ることを一昼夜とす即ち地球の自轉あり斯  
 く自から轉がら三百六十五日二分五厘の間

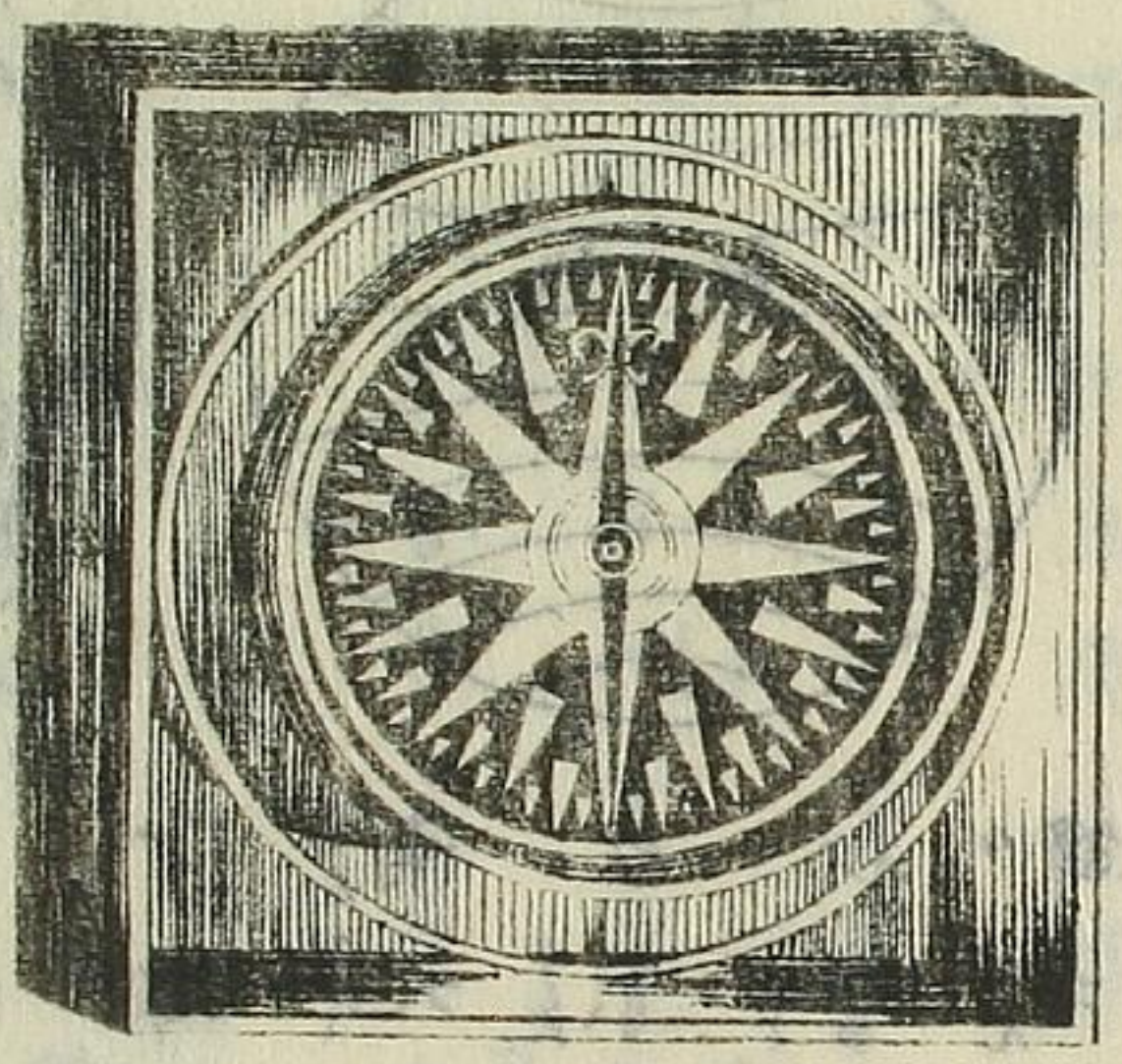
小日輪の周圓を一廻して本の處に歸るときを  
 一年とす即ち地球の公轉あり斯く日輪の周圓  
 を轉廻する間ハ或ハ二日近づき或ハ二日小  
 遠ざかり且其光を真直に受ると斜に受ると小  
 由て寒暑一様あらざり四季の變化もまた小  
 生ず但し赤道を界にして四時相反し日本あど  
 の如き赤道以北の國は夏ハ日長夜短等  
 の如き赤道以南の國は冬長夜短等  
 の篇に地球の國々冬ハ我夏ありと記したる

此國ハ赤道の南不在るゆへ夏冬相反するあり



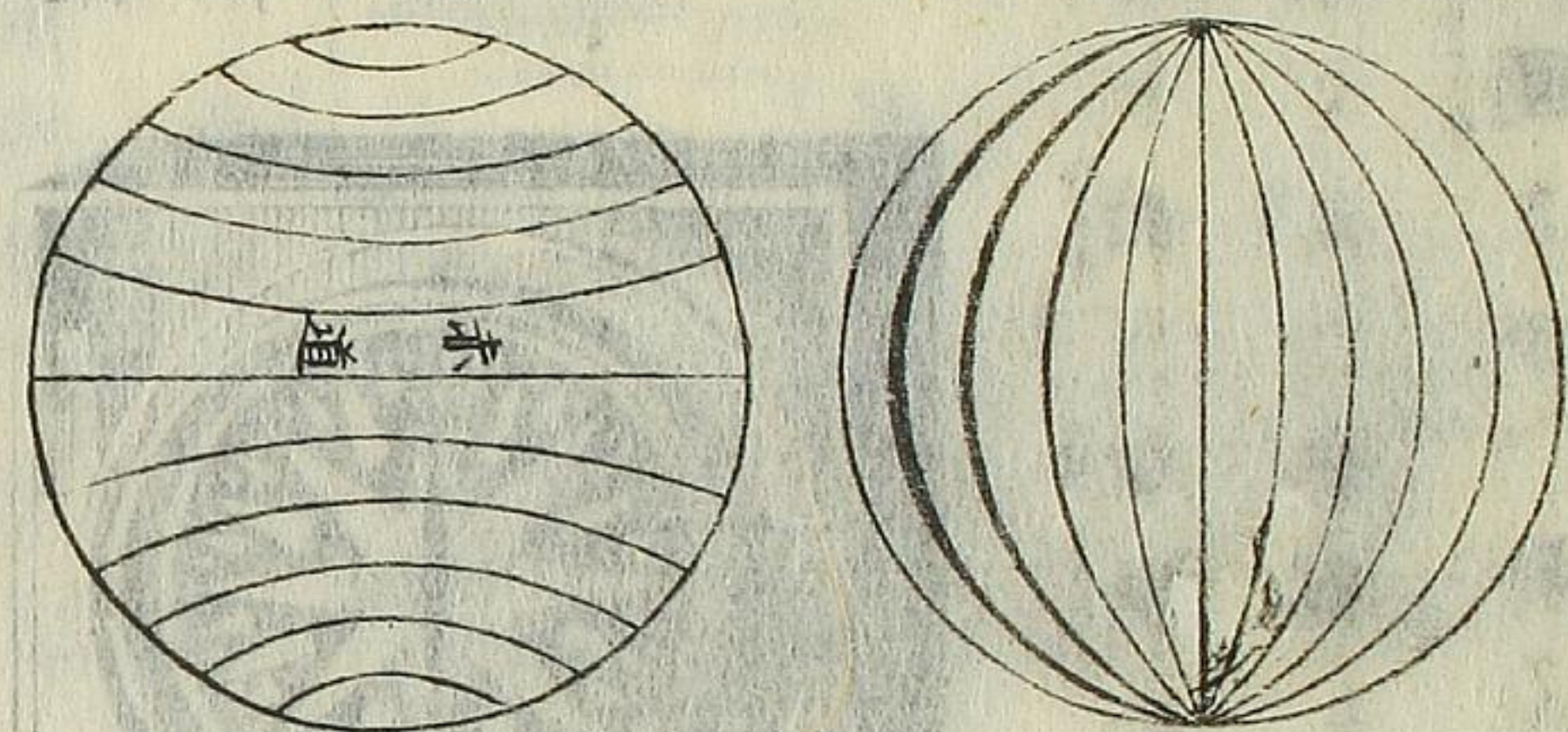
方ハ南ありこの四の方角を羅針盤の本点と名  
く羅針盤ハ航海ハ欠くをうとざる道具ハ唯

羅針盤の圖



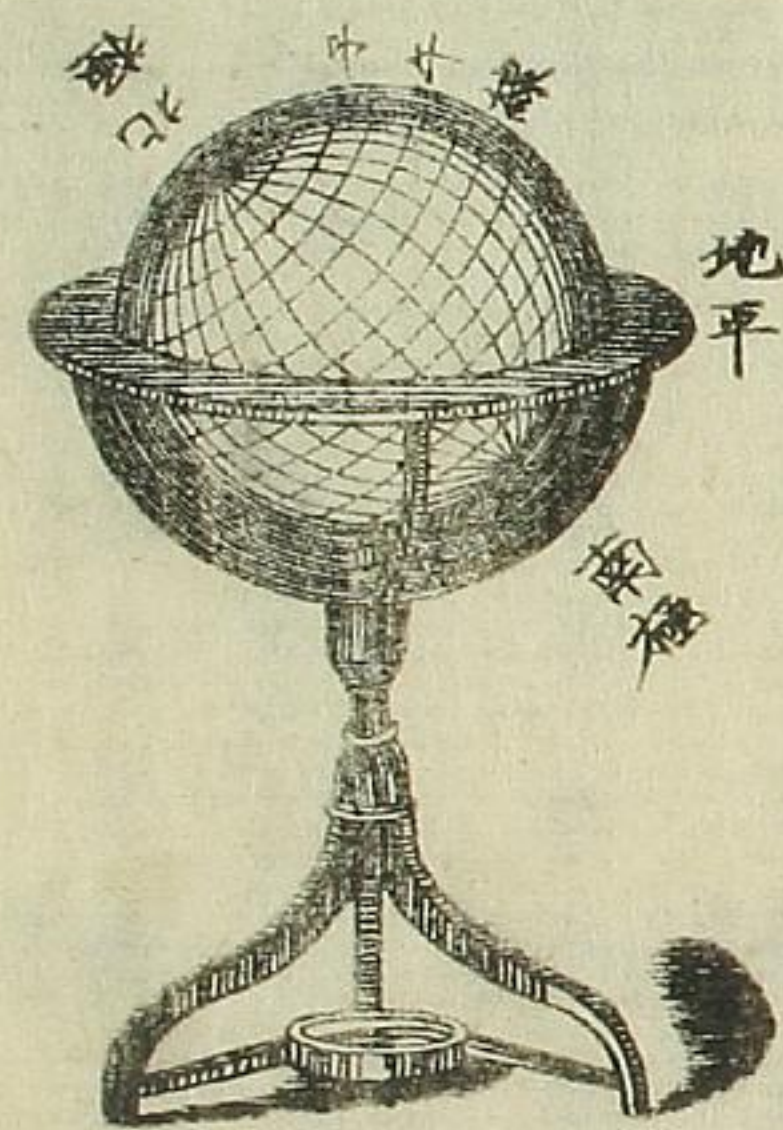
地球の面へ縦横の線を引き南北に通る線を子  
午線と名け東西に通る線を平行線といふ地球  
の状圓き中へ斯く縦横の線を引通したる線の状

子午線 平行線



圓くして輪の如しこの圓を  
 輪を三百六十に分てこきを  
 一度と名け東西刻したる  
 を經度といひ南北刻したる  
 を緯度といひ平行線を以て  
 南北の緯度を計るハ真中  
 の赤道を本として勘定を始  
 む譬へバ地理の圖書中北  
 緯三十五度といへバ赤道よ

地球儀 地平 經度緯度 刻したる 圖

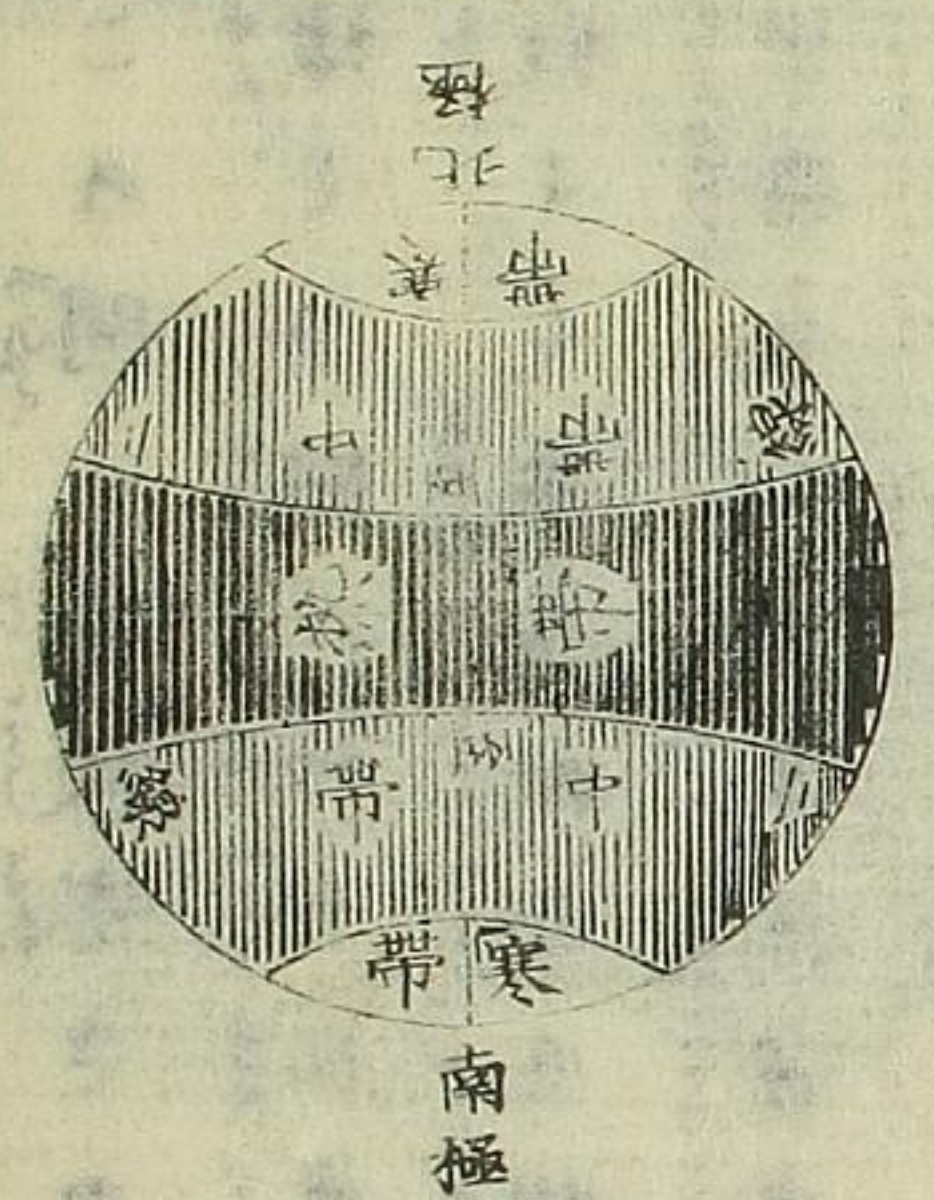


北の方三十五度不當といふことにて日本  
 又ハ亞米利加の北を不る小やふどの地を南  
 緯の方もしも同一子午線ハ何もの地より始  
 るも勝手次第おもども大抵地理書ハ英吉利  
 の天文臺よりハ英吉利  
 人ハ此を以て本  
 小立てる故ハ東  
 經百四十度とい  
 へバ英吉利の天

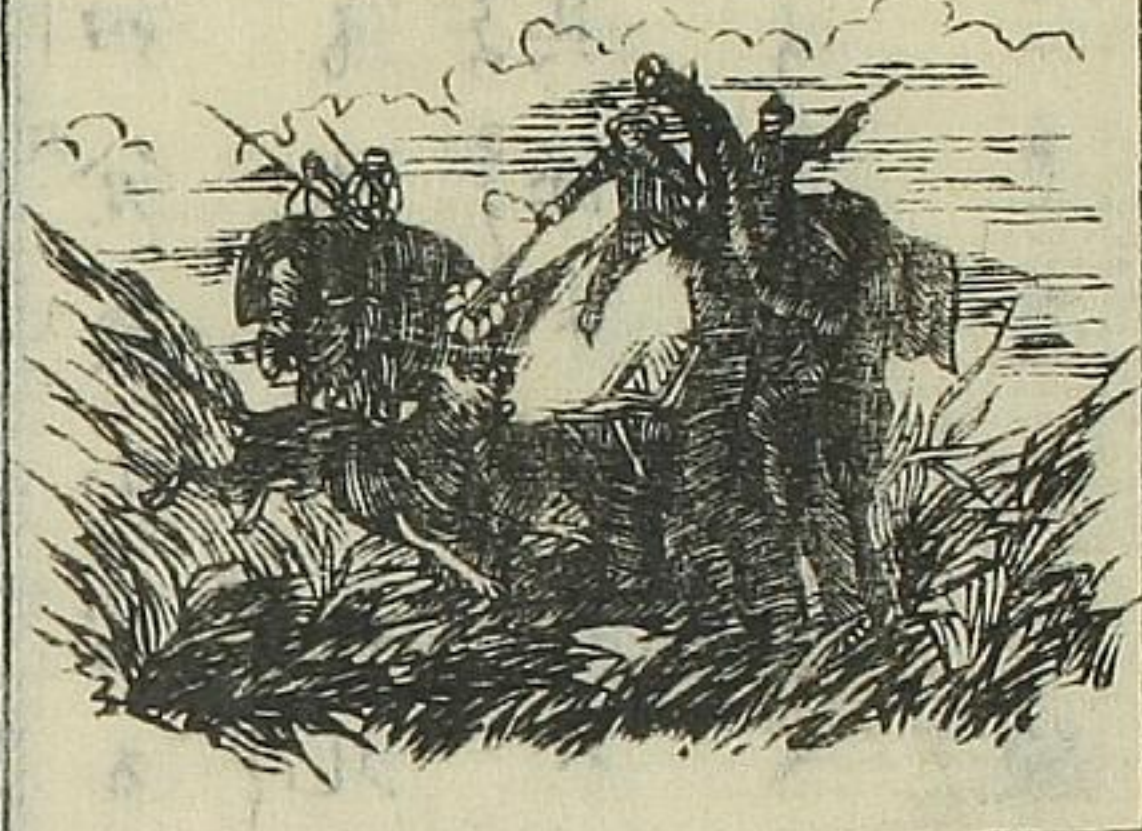
文臺より東の方百四十度不當るといふこと  
て丁度日本國の處を新おいらんどハ東經百  
七十七度南緯四十七度三十分不當を故本  
篇にも新おいらんどの人と英吉利の人と、足  
のうを向合せおいて昼夜相反するとのこと  
を記せ

地球の周圍ハ英の里法おて二萬五千里を日  
本の里数おまをバ一萬三百五十里余あり故  
こをを三百六十割たる一度ハ二十八里七合

六分四分余不當る但こハ赤道の處おて測  
るものおて南北の方お近よをバ次第短  
あり其極よ至まバ何もふくたり理あり  
赤道より北と南へ二十三度半づゝの處お線  
引きこをを二至線と名けこの間ハ時候熱故  
熱帯と名く又南北の極  
を引きこをを極線と名く  
を引きこをを極線と名く

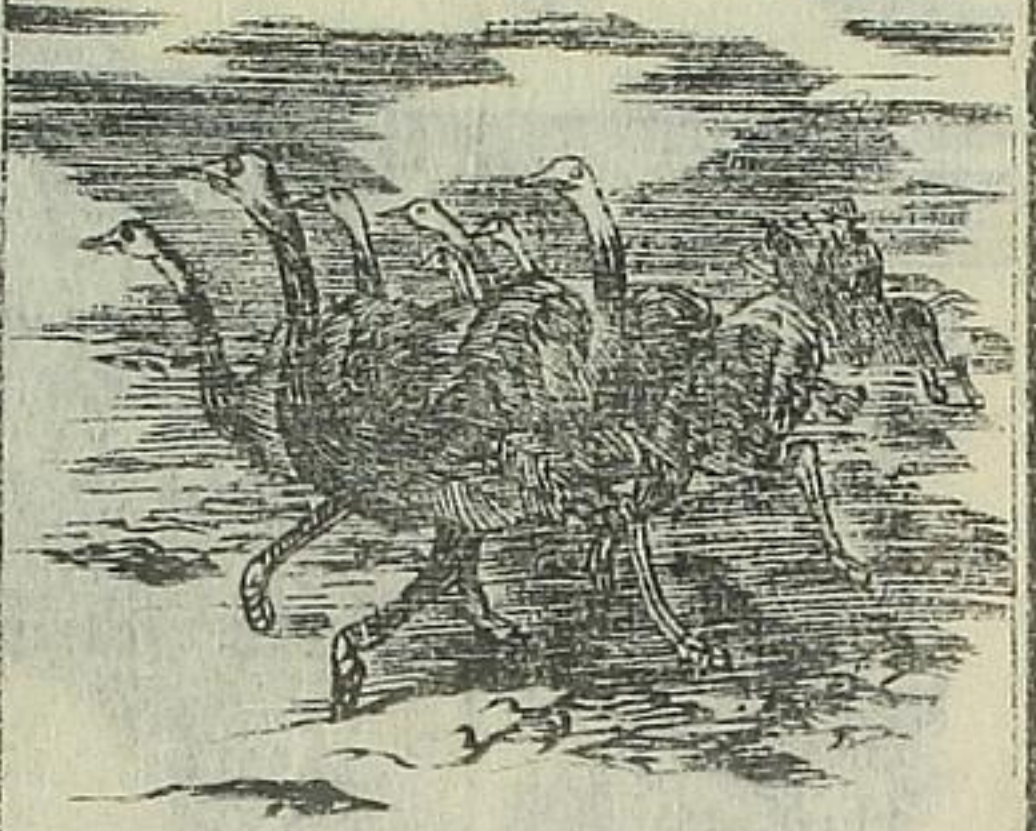


熱帯諸國の動物類

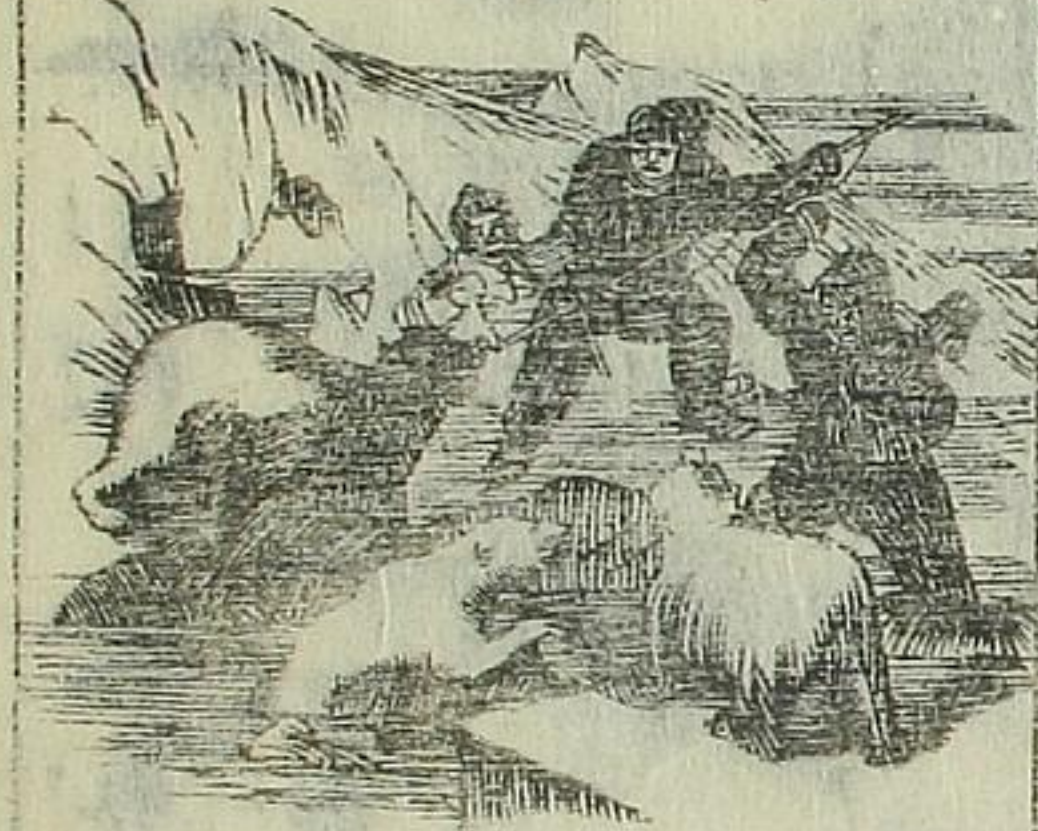


この間ハ時候寒き由一寒帯と名く極線と二至  
 線との間ハ四十三度の廣さなりこの間ハ時候  
 程よく春夏秋冬の順序正しき由一中帯と名く  
 中帯の人を身体達者にして氣力の文明開化  
 の極度不至と一之の唯此  
 方角ある諸國の歐羅巴  
 北亞米利加之合衆國支那日  
 本等皆中帯の内なり熱帯  
 の地ハ草木よく生長し御

駝鳥

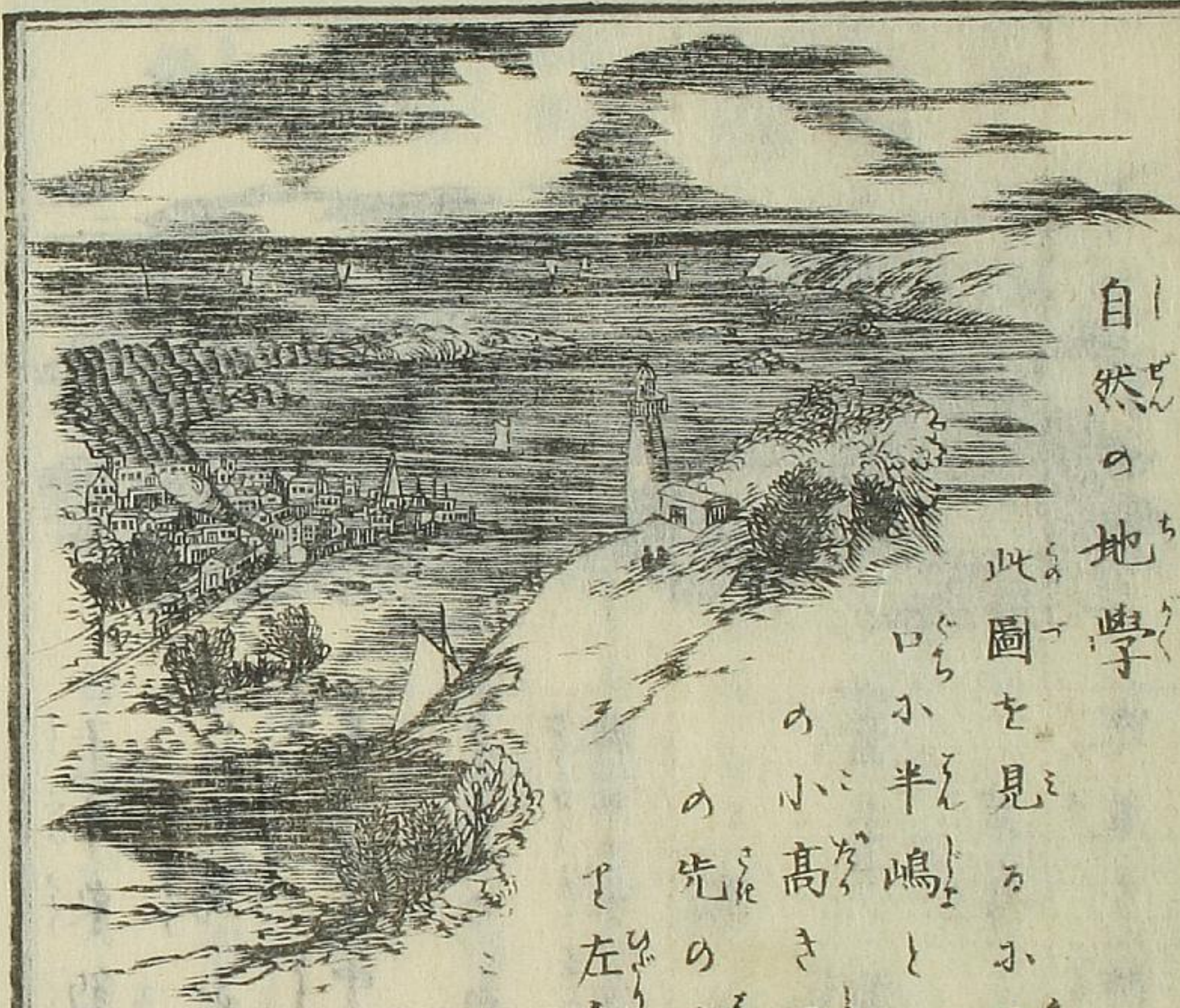


寒帯の動物類



子犀象豹虎狼蛇等多し又或  
 ハ駝鳥ふどハ大ハヤウ  
 鳥ハ中帯寒帯ハ絶てお  
 きをのあり寒帯の地ハ會  
 獸草木少く人の身体小短小  
 して愚あり獸類ハ白熊馴鹿  
 等あり都て寒地ハ生むる獸  
 ハ皮厚くして毛深し天然ハ  
 寒氣を防ぐたあり

自然の地學

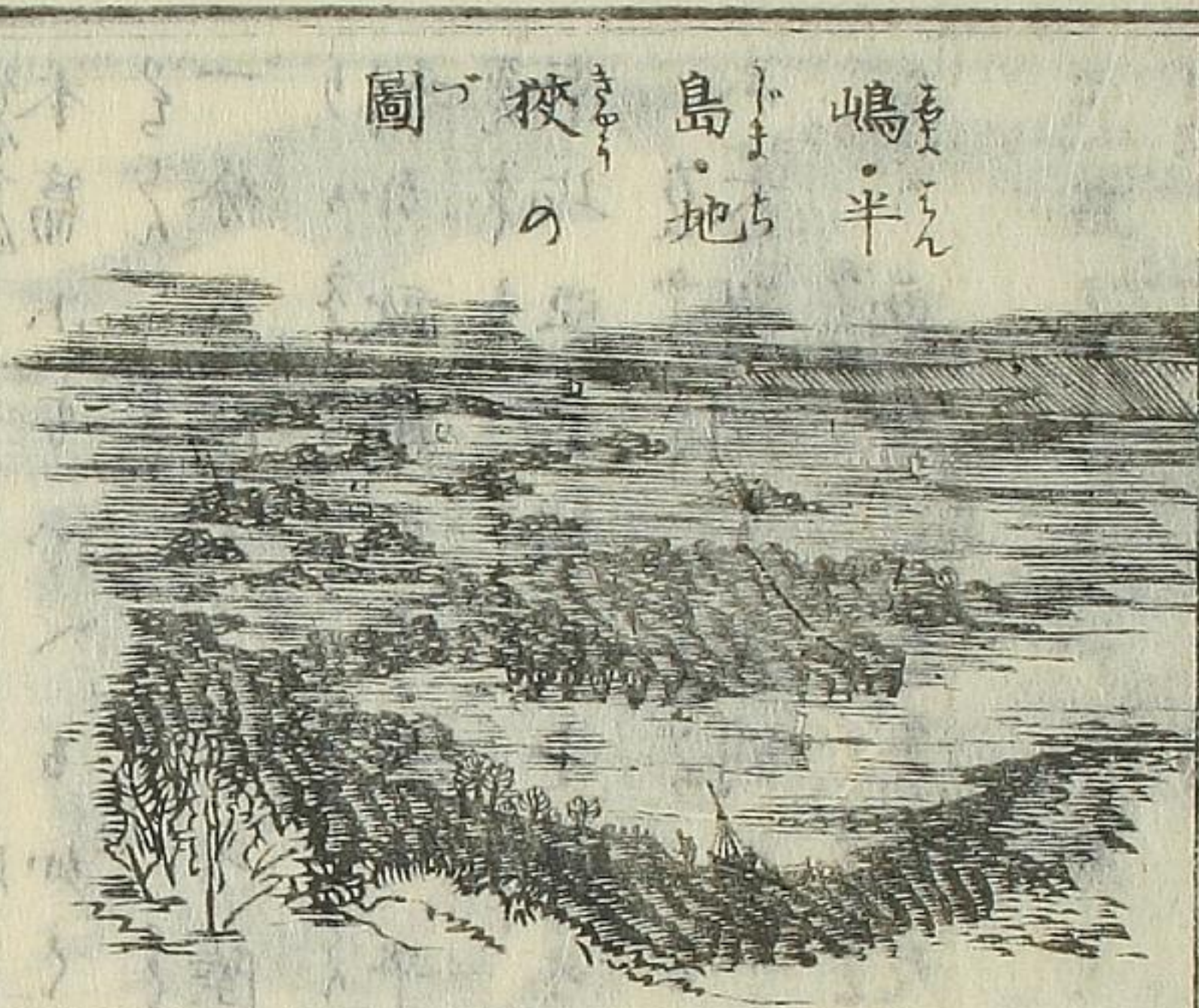


此圖を見るに遠景は大洋の小島あり右手の先の高き處に燈明臺あり左の方面に突如たる岬あり此の模様を見ておらまじ地理の區別を知り地學の大趣意を合点する

本篇小の如く地球の面三分一は陸あり二は海あり一分は陸あり二は海あり利加歐羅巴を東の半球と一は舊世界といふ南北亞米利加を西の半球と一は新世界といふ大洋洲も亦別の一世界あるを合せて三世界あり或はこれを三大地と名く西洋の語小こんちねんとといふ廣く續き一土地といふ義あり嶋とハ四方ハ海なる土地あり譬ハ英吉利麻田糟輕久場等の如き皆嶋國あり



半嶋とハ三方水ホーて一方の大地ハ續きたるを以て日本ホーてハ肥前の嶋原の如きこ



地嶋とハ大洲と大洲と續く處又ハ半嶋と大洲と續く處の校土地を以て譬ハバ亞細亞洲と阿非利加洲と續く處ハ末洲の地嶋あり南北亞米利加の界

小巴奈馬の地嶋あり岬々ハ海小突々たる陸地を以て阿非利加の南の端ハ喜望峯あり南亞米利加の端ハ山あり土地の高きものを山と以て地學ハ於てハ高さ千尺以上あるものを山と唱へ千尺以下のものを岡と以て山の高さを幾尺と計るハ海面より勘定したるものあり世界中の高山ハ印度のヒマヤ山を第一とす其高さ三萬尺ハ近

即ち英吉利の里法不て五里余の高さありさま  
どもこをを世界の大ひさ小較をバ見る不足ら



地球の中徑千六百  
分の一あり譬へバさ  
一丈六尺の至  
五分をかきの贅あ  
るグ如く地球の大ひ  
あること思ひ知るべ

火山の火を噴き烟を出るもの  
界中其數三百の内の二百ハ  
廣き砂原に雨降らざりて草木生長せざるもの

を砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠こもあり  
日本ハ砂漠あり

大洋と外海のことあり實ハ世界中の海ハ其  
水の互に通ぜざる處ありゆへにこを一大洋と  
いふも差支なき筈なれども地理の模様ハ由

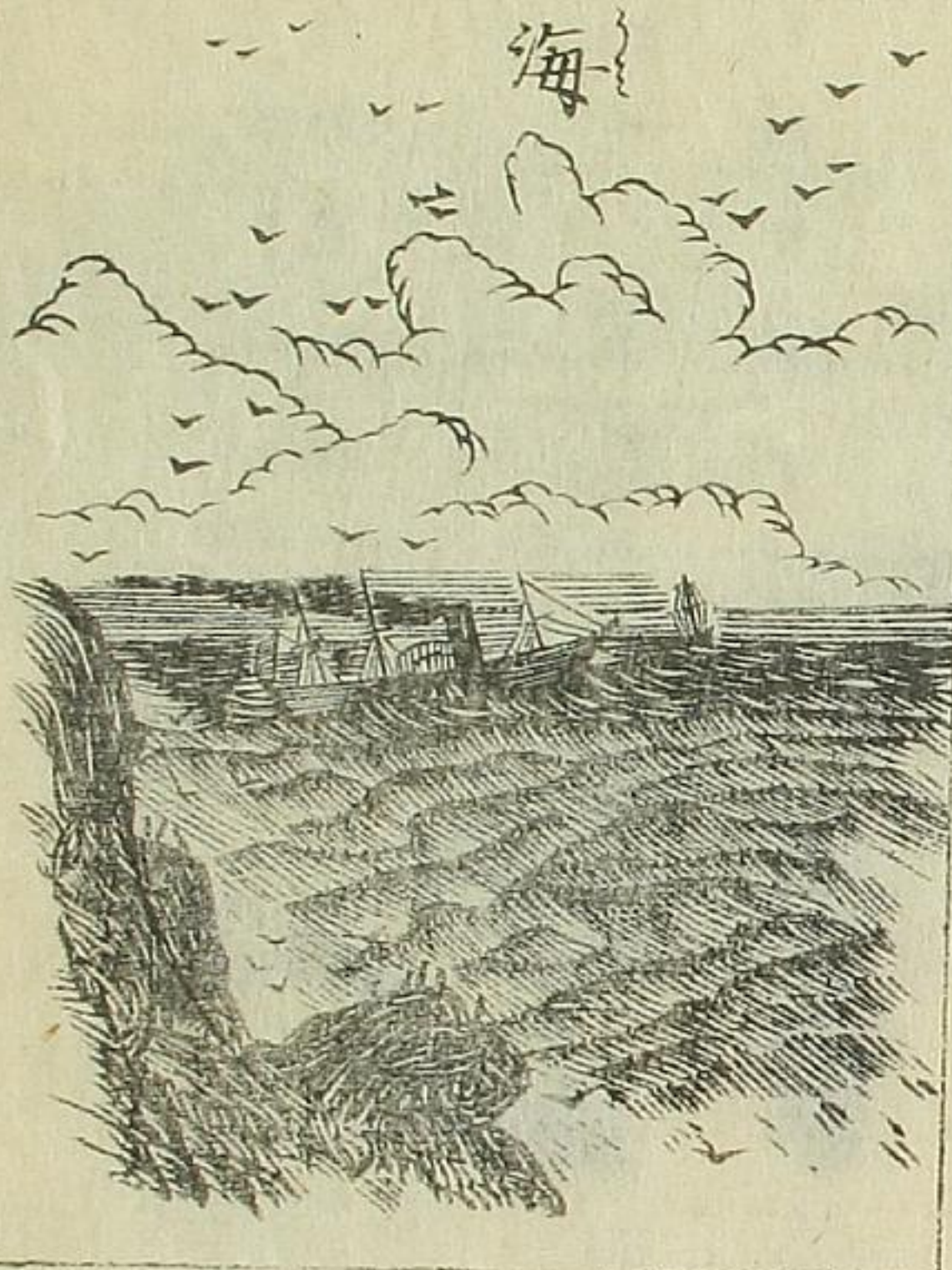
分て五大洋とあせり即ち太平洋阿多羅洋印度

大洋



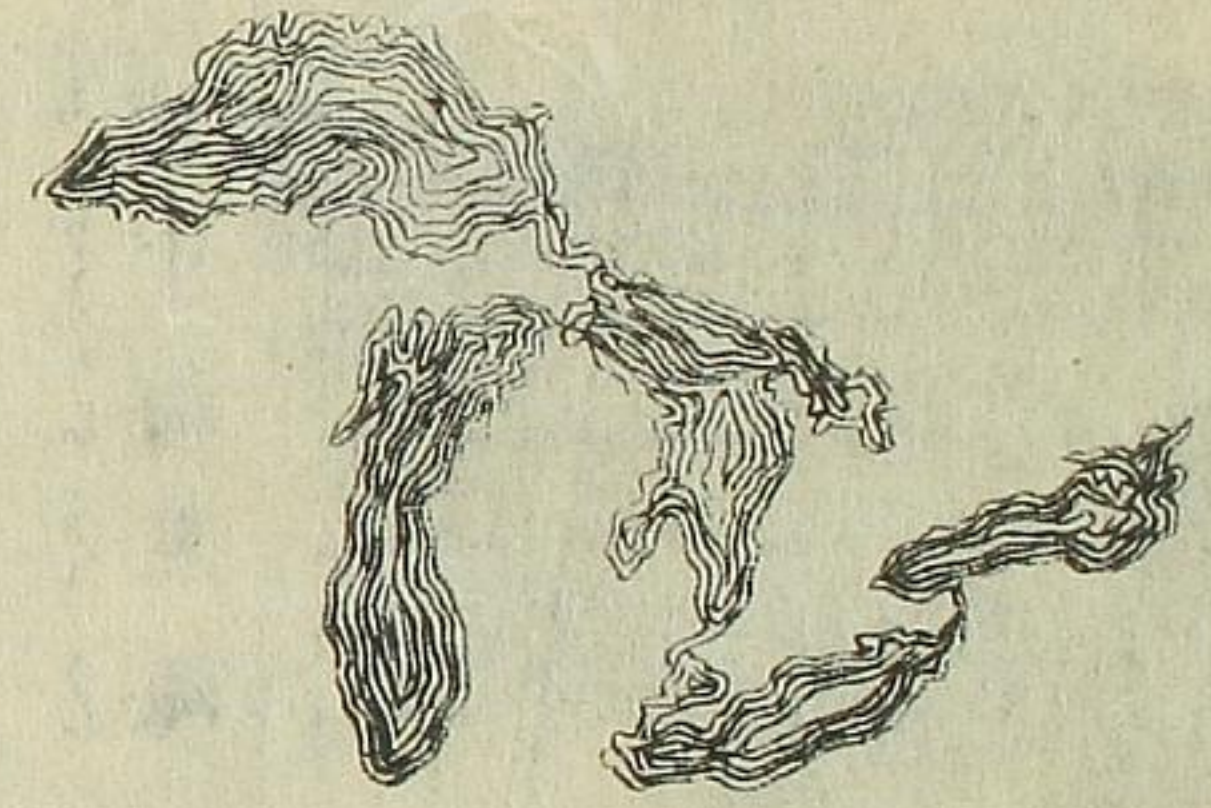
洋北極洋南極洋二  
は唯て海と記したる  
字を用ひたる  
大洋の深さを詮索  
せしあきどり  
た確あを知らむ  
その底不凸凹ある

大陸の山脈の最も高きもの不等しかるべし  
海と大洋より狭くして其周囲の陸地の近き  
そのを以て地中海黒海の如きこきあり



湖水ハ淡水の集るた  
るものなりその源を  
河よて流こも或ハ湖  
の底より湧ゆるもの  
も有り其河口ハ又河

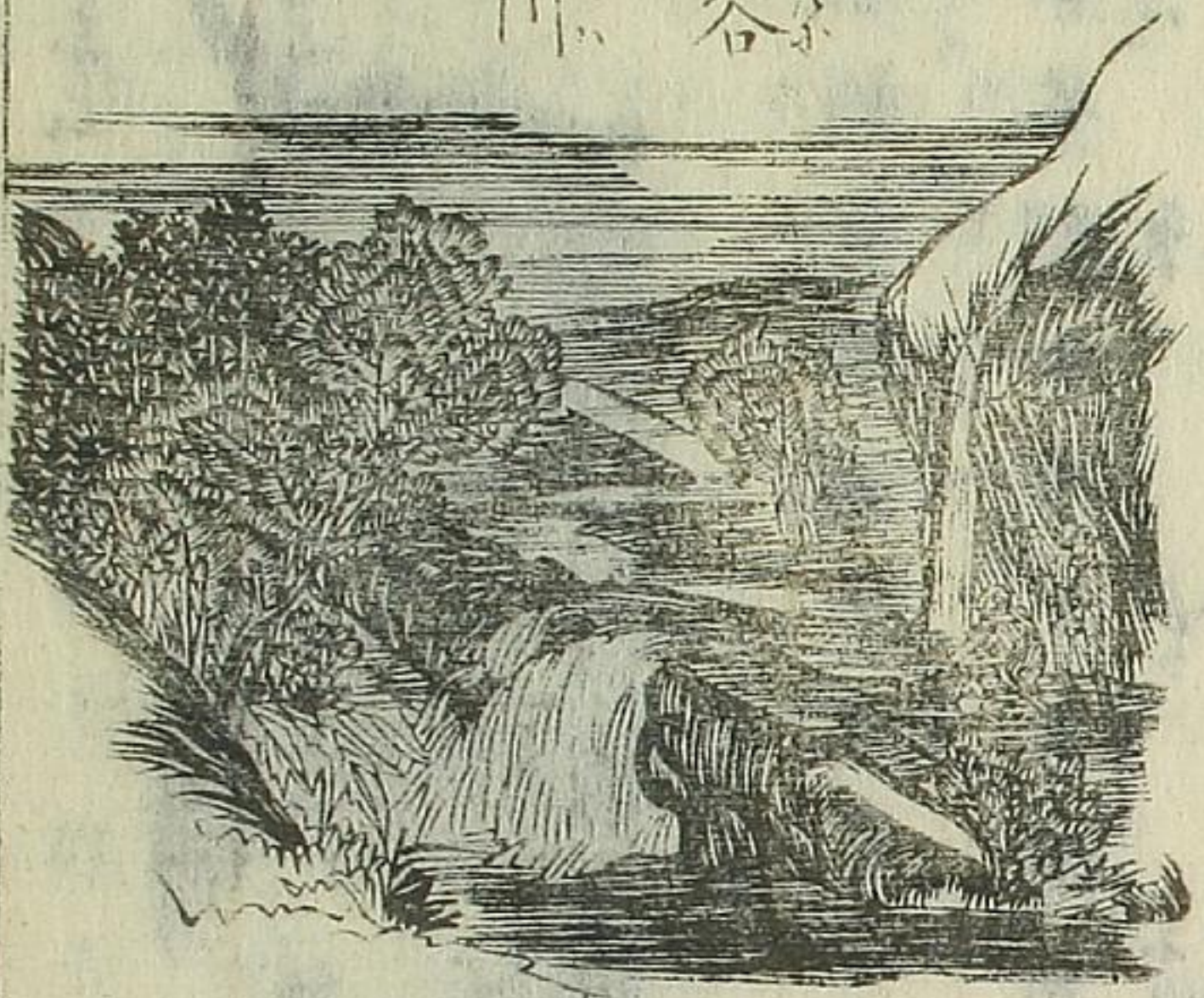
北亞米利加の合衆國と金田との界湖



船の碇泊を爲し惠を港といふ  
一に灣又ハ辨輕の八海等これあり其狭くして

小やて海不入る世界  
第一の湖水ハ北亞米  
利加洲あり  
入海とハ三方不陸ありて一方のと外海不  
續くものをいふ或は  
こをを灣といふめき

川谷



瀬戸の海と續く狭き惠をいふおらる  
たろの瀬戸ハ阿多羅海と地中海と續く惠あり  
下の関の瀬戸を周防洋と玄界洋との界目小

あ  
陸地の低き惠は流る水  
を河といふ河の源ハ或ハ  
泉上より或ハ湖水より  
づ雨雪の氷山の中溜り  
その穴より流出て谷川

ホムヤグの龍



とホムヤグ次第不集  
 て河とあり又合  
 大河とあり遂不  
 海不入あり南亞  
 米利加の「ワシントン」ハ世界第一の大川にして北  
 亜米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の長河あり  
 河の流る路ハ俄ハ低き處へ落るものを龍  
 と云ふ合衆國の「コロラド」ハ「カンヤボラ」と  
 龍のりり高さ百六十尺世界中の名所あり

人間の地理

天然の地理ハ萬代不易にして開闢の始も今日  
 も大ハ小異あることホムヤグさきども地球の面小  
 生きたる人の了簡を以て其地面を分ち其界を  
 定て各政府を立せバ人民共ハその為筋を思  
 ざるものホムヤグ是即ち人間の地理ハ區別を生  
 世界中ハ國々の分る所以チこの區別ハ國  
 争ハ由て師を起すものり野心を抱て國を

盗むものつり威力を以て土地を押し領するもの  
 あり是即ち諸國不盛衰興敗の變あり所以あり  
 斯く人の意を以て勝手次第不定めたる國の界  
 ハ必す一も海陸山川の地理を目的とせむ或ハ  
 唯双方の人の約束したる條約の書面不由ての  
 と其界を守ることあり然れども事實の便利  
 を謀り暴人の襲を防ぐためハ大洋又ハ山川  
 の筋を據て界を立るを良とす  
 本編の始ハ心へる如く世界中の人種を五小

分ちその容貌知愚同トからざるハ其の國々の  
 風俗生産の道も亦一様からず  
 ④ 文明開化トハ都會を開き市町を立て住居の  
 處を定め安樂の家小居を事々物々ハ順序を違  
 へむ心を勞し身を役し禮を重んじ義を貴ぶも  
 のを以ふ  
 ⑤ 蠻野トハ住居を定め水菓を逐て處を移し  
 或ハ牛羊を飼ひ或ハ鳥獸を捕て渡世するもの  
 を以ふ

右二様のものを尚又細小區別をなすに左の如し  
 第一を渾沌といふ蠻野の内ふても最も下等の民ふて鳥獸の仲間を外るゝこと甚う遠かたを阿非利加の内地新ぎんふあまたをヤアどの土人こそありて一もふく廣き野原小徘徊して獵獲を業と一或ハ虫を喰ひ或は野山小生トたる木の實草の根を食物とす其人の性質慈悲の心なくして互小相争ひ物事小迷ひ易く

して人の道を知らざる甚うさハ人の肉を食ふものあり其住居ハ常小家か一或ハ粗末なる小屋拭を作一一村の趣を成すことありて便利次第ふて忽ち敢トての痕跡も見ず農業を勤めざるは五穀を喰ふ衣も甚うだ見苦しくして大抵裸体の者多し其知識ハ固より校文字を知らざる法律を知らざる禮義の道なく地面の區別なく斯る愚民の内小矢張頭分のみありて大勢を支配しその取扱ひ甚うだ暴虐無

道あり  
 第二を蠻野といふ渾沌の民よても一段上席な  
 り支那の北方鞏固荒大野又ハ北阿非利加の土  
 民等こまおて此種類の民ハ住居の家なく天幕  
 を張て雨露を凌ぎ或ハ家を作るとても甚とど  
 粗末なり水草の便利のためハ其天幕又ハ家  
 作を携へて處を移すことありその食物ハ牛羊  
 の肉を喰ひ其乳汁を飲と稍農業の道を心得て  
 五穀を喰ふ者あり蠻野の國ハ文字あり

もこをを讀と書きまはる者ハ甚とど稀あり藝術  
 不至してハ最も拙くして道具仕楫の工夫を知  
 らむ此人民を支配するものハもとてあるくと  
 て家筋の人あり下々の者ハこの人を親分と  
 君父として恭ひ尊びその法甚とど不人情あり  
 て暴り  
 第三を未開又ハ半開といふいまだ真の文明開  
 化ハ至らざりてあつた開けかりてたちもの  
 かきども蠻野ハ較色ハ遙ハ上等あり農業の道



よく行届て食物多く藝術も進で次第不巧も趣  
 き都會を開き家居を飾り文字學問の道も隨分  
 盛あり但し嫉妬の心深くして他國の人を忌  
 嫌ひ婦女子を輕蔑し弱きを苦むる風あり  
 支那土留古邊留社等の諸國ハありを開けたる  
 ものといふ事  
 第四を文明開化といふ禮義を重んじ正理を貴  
 び人情穩みして風俗やさしく諸職の術ハ日不  
 新しして學問の道ハ月不進し農業を勤め土作

を勵む百般の技藝盡きたるものなく國民業を  
 安んじて天の幸を受け末頼母しく自から満足  
 せり亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭  
 瑞西等の諸國ハ文明開化の域不至るものあり  
 世界中小帝國あり王國あり公國あり侯國あり  
 或ハ共和政治の國あり帝國とハ帝の支配する  
 國あり魯西亞澳地利佛蘭西の如きことあり王  
 國とハ土の支配する國あり英吉利普魯士西班

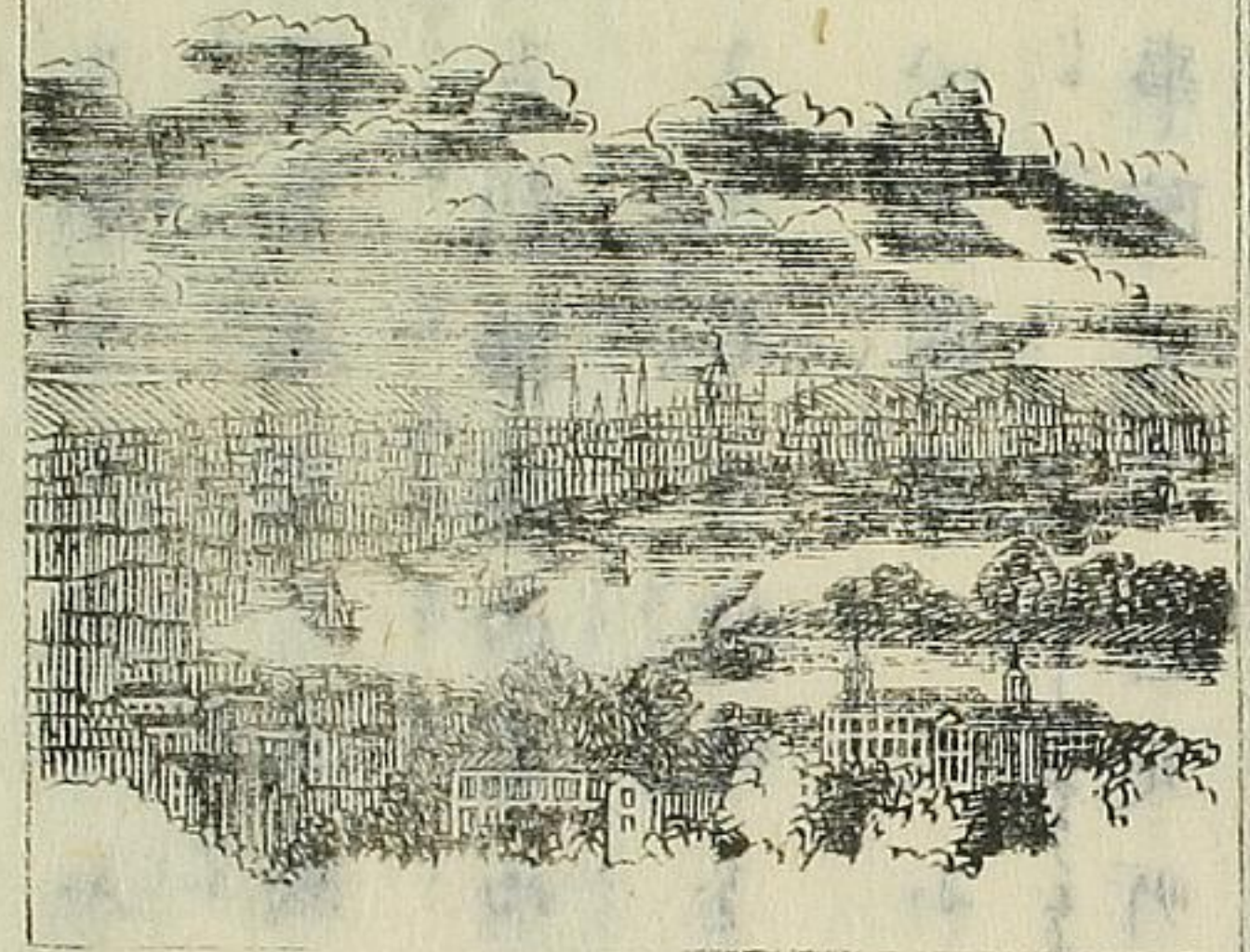
牙和蘭の如きこもあり公侯の國もこも小同ト  
 共和政治の國とハ主君なく國中の人の申合せ  
 して治むる國あり南北亞米利加洲の諸國瑞西  
 理邊利屋の如きこもあり  
 國中の支配取締の便を謀り其地面を州に分ち  
 郡に分ち縣に分てりその名目ハ國々分て同ト  
 からさきども事實不於て相異なることあり  
 人民の多く集りて家を建て市町を開き一處を  
 都會といふ亞米利加合衆國不て大都會と唱ふ

合衆國の

都會あり

をりとい

んまの景



る處ハ「不」より「不」  
 是でるひや「不」ふとん  
 なるちも「不」にうをる  
 下以ん生等ふは都會の  
 場所を撰ぶハ商賣の  
 便利を謀り産物運送等

の模様不由てこもを定るものあり  
 首府と或ハ唯都とハ一國の政府のあり場所を以

不わしんとんハ合衆國の首府あり「不」んどんハ

英吉利の首府あり  
 政府の体裁とハ其國を治むる法の立方を以て  
 その種類三あり  
 第一を以てあるまじといふ立君の義あり立君とハ  
 一人の君を立て、其國を支配するところあり譬  
 ハ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君  
 の國あり立君の政体を又一種に分ち一を定律  
 立君といふ國君一人にて政事を自由かせむ國  
 内ハ議事院として評定所を開き國中一同の入札

かて人物を選び毎年この評定所ハ集めて法律  
 を定め掟を設け一人の君として國の掟を破  
 得ざるよし小いたるものあり譬ハ其國ハ君  
 不行状ハて奢を極め或ハ安ハ師を起して國中  
 ハ用金おどいひ付んとするも議事院の評議ハ  
 て決りて許さむ都て君の威權ハ甚だ弱く國を  
 先ハして君を後ハするの趣意あり英吉利和蘭  
 西班牙等の如きこも有り又一種のかあるまじを  
 獨裁立君といふ國ハ君を立てその君一人の勝手

次第だいいにて政事せいじを捌はかき國民こくみんの生命せいめいも君きみのちのち  
 とといひ上あしたる人の意い不ふ背へいけバ罪つみなき者ものをも  
 殺ころすことといひ國民こくみんの家藏けさう身代みしろも君きみのちのちあり  
 といひ上あしたる人の見み込こみ次第だいいにて安やす不ふ年ねん貢こうん運うん上じやう  
 を取と立たて或あるハ罪つみ不ふ陷げん入にもて欠か所ところ不ふ在ざいることとい  
 と何事なにごとも一人ひとりの了りやう簡かん不ふて天下てんかを私し有いうるものあり  
 り魯西亞ろしや土留とるこ古支こし那等なとうの如ごとく其君ききみ若わかく賢明けんめいあり  
 る人物じんぶつ不ふてよく心こころを用もちは國治こくちらざる不ふ以もて  
 ともども萬まん一いつ無む學がく文盲ぶんもう不ふて自みづか終しゆう不ふ増長ぞうちやうまると

きハ民たみの難がた澁しぶ一方ひとからむことを暴君ばうきんといふ  
 第二だいにの政体せいたいを貴族きぞく合議がぎといふ家柄けいの貴たかき人ひと々  
 寄集よひありて政事せいじを取と扱あつものあり  
 第三だいにを共和きやう政治せいぢ或あるハ合衆がしゆう政治せいぢといふ國中こくちゆうの人ひと  
 民申たみまを合あ不ふて政事せいじを捌はかくものあり共和きやう政治せいぢの趣しゆ  
 意いハこの世よ不ふ生せい見たる人を同どう等とう同格どうかくのものと  
 定め其論そのろん不ふ云いく凡たゞそ人ひとたるものハ各各自精せい心しん以もて  
 身体てい以もて貴たかき人ひととして此こ精せい心しんを二に通と具ぐふ方かた不ふも  
 以もて手足てしゆを八はつ本ほん持もち不ふも以もて天てん然ぜん不ふ

貴賤のちる辱れよふあー況して歴代の家柄の  
 を口實ふしてたまく其人小才徳以是バ格別  
 あまども若し然らざして唯其位の人の上小  
 立ち心ハ賤くして我終を遅ふまるとは下々  
 の者ハたとつ人小勝をたる才徳以るも暴人の  
 下小恐入る百姓町人ハ汗を流して家業を管  
 一錢づ貯へたる金をもかーくら驚かさる  
 如くいつの間ハ取上らる上の人我  
 終放盡小元入る姿あまバ大ハ小天理小戻を

畢竟世の中政府を立るも國中不正ふる  
 事の行ハせざるよふ人々の生命の危うらざる  
 よふ其身代を失わざばよふ他國の侮を受けざ  
 るよふ其取締をふし其守護を設るため小役人  
 をもこーらへ武備をも整へ農工商よりその入  
 用を拂ふ認ふまバ譬へハ下々の者ハ金を拂ふ  
 て物を買ふが如し直段ハ成丈け安くして品柄  
 ハ成丈け上物を選へき苦ぢを然る小其代金を  
 かり渡して品物をまらるで請取らぬめこり却

其金をたゞ奪ひし者のため小痛らるゝあど  
 のことありてハ以ての外あり害ありて益あり  
 ことあり故小貴賤上下歴代家柄あどの話ハ打  
 止め人々其天然の心を勞し其天然の身を働  
 し他人の妨をおさむして共々小其身を守り其  
 父母妻子を養ひ其家を治め其國を建て趣意お  
 き命令を下すものをおく趣意おき貢税を取立  
 るものをおく天下太平國家安全を致す  
 右の議論小摺きハ政府もたゞて濟むべきよし

かととも人の心の同トからざるハ其面体の各  
 異なるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人小  
 も何らさきハ争論おきこと能く故小國中の  
 人申合せ人札を以て人物を選び政事の頭取を  
 立て評議の役人を以て付け在役の年限中ハ相  
 當の給金を取らして政を為さしめ専ら國中  
 同の便利を謀り外國へ對して侮を受けず國威  
 を海外小すて耀々を趣意としを亞米利加合  
 衆國小てハ此頭取をおきトてんとしハ小在役

# 本不為版

明治二年己巳八月  
官許

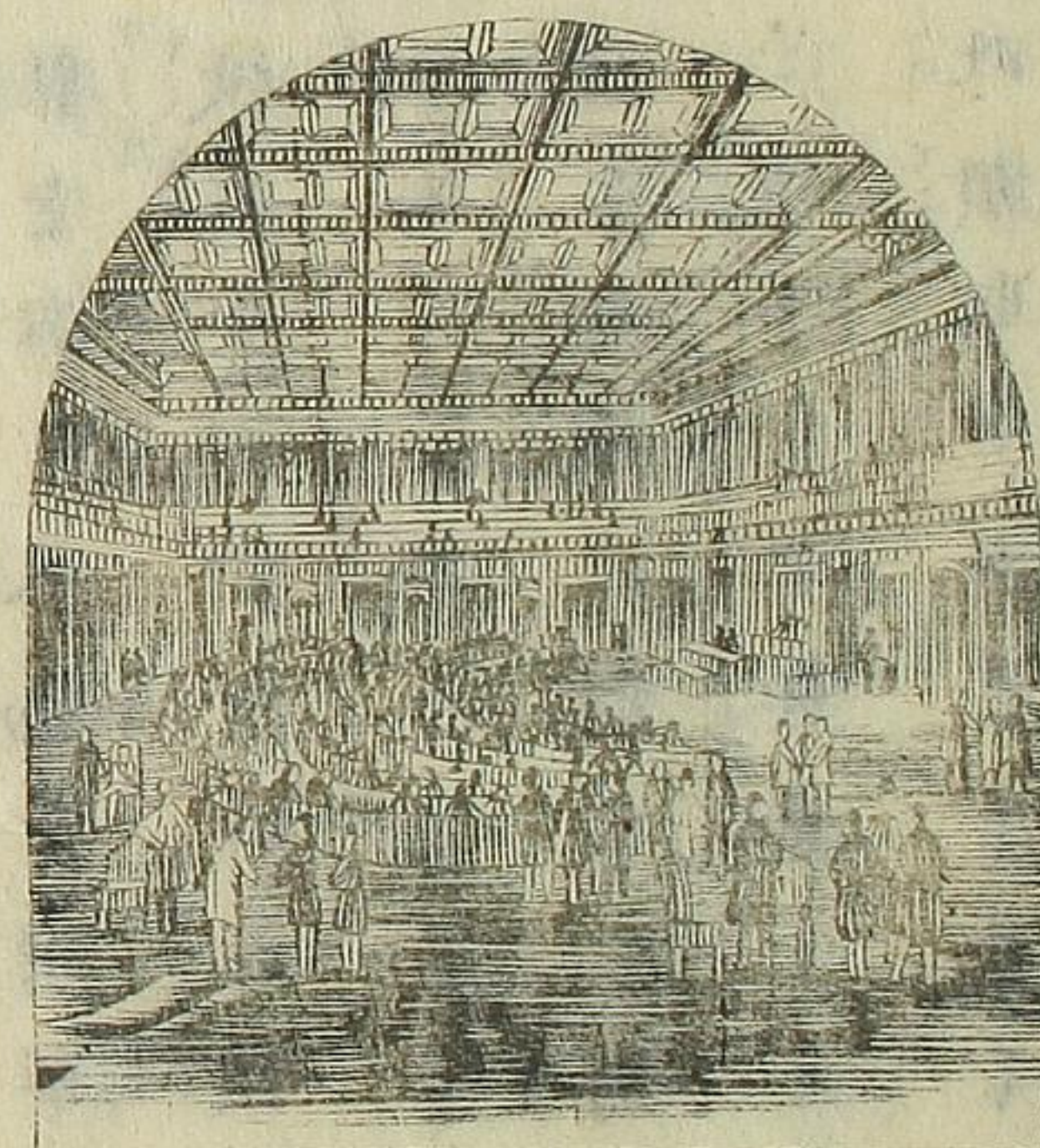
名田庄四郎

東京  
賣  
社

010190533994

不  
レ

亞米利加  
合衆國  
議事院  
の圖



上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代あり  
評議の役人  
一席と下席  
と兩様あり  
四年交代  
の給金二萬五  
千と云らるる  
世界國盡附録終

世界國盡附録

